



琉球大学

大学院 医学研究科・保健学研究科
医学部 医学科・保健学科
医学部附属病院



琉球大学

- ◎ 大学院 / 医学研究科・保健学研究科
- ◎ 医学部 / 医学科・保健学科
- ◎ 医学部附属病院

2019 概要

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS
GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE,
GRADUATE SCHOOL OF HEALTH SCIENCES,
FACULTY OF MEDICINE
SCHOOL OF MEDICINE, SCHOOL OF HEALTH SCIENCES,
AND UNIVERSITY HOSPITAL
GUIDE BOOK

〒903-0215
沖縄県中頭郡西原町字上原 207 番地
TEL(098)895-3331 (代)
<http://www.med.u-ryukyu.ac.jp/>

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE,
GRADUATE SCHOOL OF HEALTH SCIENCES,
FACULTY OF MEDICINE
SCHOOL OF MEDICINE, SCHOOL OF HEALTH SCIENCES,
AND UNIVERSITY HOSPITAL



UNIVERSITY OF THE RYUKYUS
GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE,
GRADUATE SCHOOL OF HEALTH SCIENCES,
FACULTY OF MEDICINE
SCHOOL OF MEDICINE, SCHOOL OF HEALTH SCIENCES,
AND UNIVERSITY HOSPITAL

CONTENTS 目次

本学部の基本理念・附属病院の理念及び基本方針	3
FOUNDING CONCEPT AND BASIC POLICY	
1 沿革	5
HISTORY	
2 歴代学部長・研究科長・附属病院長	9
SUCCESSIVE DEANS AND DIRECTORS	
3 教育・研究・診療の特色	10
EDUCATION, RESEARCH AND CLINIC	
4 社会貢献・国際交流	21
SOCIAL CONTRIBUTIONS AND INTERNATIONAL EXCHANGE	
5 組織図	23
ORGANIZATION CHART	
6 職員	25
ACADEMIC AND ADMINISTRATIVE STAFFS	
7 講座及び分野配置図	34
DEPARTMENTS AND SUBJECTS MAP	
8 学生の定員・現員及び入学状況	35
QUOTA AND ADMISSION OF STUDENTS	
9 大学院	36
GRADUATE SCHOOLS	
10 解剖体	37
AUTOPSIES FOR GROSS ANATOMY	
11 病理解剖件数	37
NUMBER OF PATHOLOGICAL AUTOPSIES	
12 図書・学術雑誌	37
COLLECTION OF BOOKS AND JOURNALS	
13 附属施設	38
LABORATORY CENTERS	
14 附属病院	39
UNIVERSITY HOSPITAL	
15 琉球大学大学院医学研究科・医学部各講座等主要研究	40
OUTLINE OF MAIN RESEARCH PROJECTS	
16 医学部附属病院各診療科(部)	45
HOSPITAL FLOOR GUIDE	
17 診療実績	46
CLINICAL ACTIVITIES	
18 土地・建物	50
CAMPUS AND BUILDINGS	
19 建物配置図	51
CAMPUS MAP	
20 アクセス	52
ACCESS	

地域に根ざし世界 に向けた高度医療

東南アジア・南太平洋地域の医療交流拠点

南に開かれた国際性豊かな医学部



大学院医学研究科長・医学部長
石田 肇
 Dean,
 Hajime Ishida, M.D., Ph.D.

本学部の基本理念

FOUNDING CONCEPT OF THE FACULTY

琉球大学医学部は、医学と保健学に関する専門の知識と技術を修得し、高い倫理性を身につけ、医学・医療の進歩や社会的課題に柔軟に対応しうる医師、保健・医療従事者を育成することを基本目的としています。

加えて、沖縄県の置かれた自然、地理及び歴史的特性をふまえ、島嶼環境に由来する困難な地域保健医療の充実や地域特性に根ざした医学・医療の課題解決に努めると共に、アジア・南太平洋地域を中心とする南に開かれた国際性豊かな医学部を目指しています。

The essential purpose of the Faculty of Medicine is to nurture physicians and medical science specialists who are willing to develop their specialized knowledge and skills with high ethical standards in professional research areas, and to carry out the research in all fields of medicine and medical science by responding adequately to the latest progress and social problems.

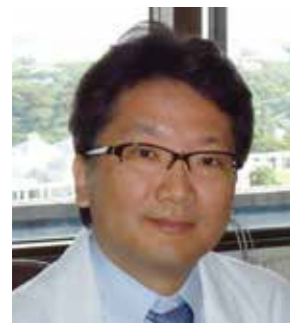
In addition, the Faculty is obligated to improve medical care in the local community, to resolve medical and health care problems, and to extend its promotional activities to countries in the Asian and Pacific regions based on recognition of the natural environmental conditions, geographic location and historical situation in the Ryukyu Islands.



副学部長
岸本 英博
 Vice-Dean,
 Hidehiro Kishimoto, M.D., Ph.D.



副学部長
山城 哲
 Vice-Dean,
 Tetsu Yamashiro, M.D., Ph.D.



副学部長
高橋 健造
 Vice-Dean,
 Kenzo Takahashi, M.D., Ph.D.



副学部長
豊里 竹彦
 Vice-Dean,
 Takehiko Toyosato, R.N., Ph.D.



医学科長
筒井 正人
 Head,
 Masato Tsutsui, M.D., Ph.D.



大学院保健学研究科長・保健学科長
福島 卓也
 Dean,
 Takuya Fukushima, M.D., Ph.D.



病める人の立場に立った質の高い医療を提供 国際性豊かな医療人の育成

附属病院の理念及び基本方針

CONCEPT & BASIC POLICY OF THE UNIVERSITY HOSPITAL

琉球大学医学部附属病院は、「病める人の立場に立った質の高い医療を提供するとともに、国際性豊かな医療人を育成する。」という理念を掲げ、

- 1) 生命の尊厳を重んじた全人的医療の実践
 - 2) 地域における保健・医療・福祉の向上に対する貢献と関連機関との連携
 - 3) 先端医療技術の開発・応用・評価
 - 4) 国際性豊かな医療人の育成
- を本院の基本方針としています。

本院は、平成19年3月にエイズ診療拠点病院、平成20年2月には都道府県がん診療連携拠点病院、平成21年11月には沖縄県肝疾患診療連携拠点病院、平成23年3月にはへき地医療拠点病院としての指定を受け、沖縄県における唯一の特定機能病院として、感染症やがん、生活習慣に密接に関連した種々の疾患を中心に高度医療および地域医療を担い、その使命と役割を果たすと同時に、東南アジア地域における医療拠点としての貢献を目指しています。

At the University Hospital, we aim to develop international-minded medical staff who will provide high quality healthcare in accordance with our patients' requirements. We also aim to provide optimal medical care with profound compassion for the patients, and also to improve the community healthcare and welfare. As the only designated "Advanced Treatment Hospital" in the Okinawa prefecture, we have demonstrated a firm commitment to provide innovative and advanced medical care.

Our basic policies are:

- 1) to provide high quality medical treatment to ensure the dignity of life;
- 2) to improve the quality of community health care and welfare through cooperation with the other medical and allied health organizations;
- 3) to develop and apply advanced medical knowledge and technologies; and
- 4) to nurture physicians and medical staff who possess international viewpoint and outlook.

Since being appointed the community AIDS Clinical Center (March 2007), and the landmark Hospital for cancer therapy (February 2008), and liver diseases (November 2009), and for medical care in remote area (March 2011), in Okinawa prefecture, the University Hospital functions as the pivotal center for advanced medical care. As the leading hospital in Southeast Asia, it is also expected to contribute to improving community healthcare and to provide updated medical treatments, especially in the fields of infectious diseases, cancer and lifestyle-related diseases.



附属病院長
大屋 祐輔
 Director,
 Yusuke Ohya, M.D., Ph.D.



副病院長
青木 陽一
 Vice-Director,
 Yoichi Aoki, M.D., Ph.D.



副病院長
鈴木 幹男
 Vice-Director,
 Mikio Suzuki, M.D., Ph.D.



副病院長
垣花 学
 Vice-Director,
 Manabu Kakinohana, M.D., Ph.D.



副病院長
中西 浩一
 Vice-Director,
 Koichi Nakanishi, M.D., Ph.D.



副病院長
大嶺 千代美
 Vice-Director,
 Chiyomi Omine,
 Certified Nurse Administrator



昭和44年

保健学部校舎
(那覇市与儀)



昭和48年

保健学部及び附属病院
の鳥瞰図
(那覇市与儀)



昭和54年

医学部の設置



昭和55年

与儀キャンパス
医学部校舎(旧保健
学部校舎)及び医学
部附属病院



昭和40年8月	佐藤栄作総理大臣が来沖し「琉球大学に医学部を設置する」との声明がなされた。
12月 December,1965	琉球政府内に琉球大学医学部設置構想委員会が設置された。 The Committee for Planning the Faculty of Medicine, University of the Ryukyus, was organized by the Government of the Ryukyu Islands.
昭和41年7月	第一次琉球大学医学部設置調査団が来沖し、「医療の基礎的条件を整備するための基本的態度と医療要員の要請に関する準備的措置要領」が発表された。
11月	第二次調査団が来沖し、次の4原則が確立された。 1. 県立中部病院をインターン指導の教育病院とする。 2. 琉球大学に保健学部を新設する。 3. 那覇病院を改築し、教育病院とする。 4. 公衆衛生の施策を強化する。
November,1966	The Japanese Government investigation committee for establishment of the Faculty of Medicine, University of the Ryukyus, visited Okinawa and made the following four announcements: 1. A postgraduate medical education program will be established at the Okinawa Chubu Hospital. 2. A Faculty of Health Sciences will be newly founded in the University of the Ryukyus. 3. Naha Hospital will be renovated for adapting the postgraduate medical education program. 4. Public health programs will be facilitated.
昭和42年1月	琉球政府は、行政主席の諮問機関として、琉球大学医学部設置準備委員会を設置し、教育機能と地域医療機能を併有する新病院建設基本構想を検討した。
5月	本土側施設整備専門部会と沖縄側専門委員会が新那覇病院建設計画について討議し、将来は、医学部教育病院としての機能を持ち、当面は保健学部の実習も兼ねた総合病院とすることになった。
昭和43年5月 May,1968	琉球大学設置法の一部改正により保健学部(定員数60名)が設置された。 The Faculty of Health Sciences was founded by the Government of the Ryukyu Islands (Enrollment quota was 60 students), based on a royal revision of the act for incorporating the University of the Ryukyus.
昭和44年4月 April,1969	保健学部の第一期生59名が入学した。 Fifty-nine students enrolled for the first term in the Faculty of Health Sciences.

昭和45年6月	琉球大学設置法の一部改正により新那覇病院は琉球大学附属病院となった。
昭和47年5月 May,1972	本土復帰に伴い琉球大学附属病院は、琉球大学保健学部附属病院となった。 The Hospital of the University of the Ryukyus was reorganized into the Hospital of the Faculty of Health Sciences, University of the Ryukyus, when the administration of Ryukyu was returned to Japan from the U.S. government.
昭和49年11月	地域医療部、救急部、理学療法部が随時設置され、総合病院として承認された。
昭和50年3月	臨床研修指定病院となった。
昭和52年4月 April,1977	琉球大学医学部創設準備室が設置された。 The Preparatory Section for the Faculty of Medicine, University of the Ryukyus was launched.
12月	沖縄県解剖体確保推進協議会が結成された。
昭和53年10月	解剖体保存棟が保健学部敷地内に完成した。
昭和54年1月	医学部の昭和54年10月設置、昭和56年4月学生受け入れが内定した。
2月	沖縄県は献体組織“琉球大学でいご会”を結成した。
3月	沖縄県は、財団法人琉球大学医学部設置協力を設置した。 国立学校設置法の一部改正により昭和54年10月琉球大学医学部が設置された。(医学科31講座) また、昭和56年4月学生受け入れ(定員数医学科100名、保健学科60名)が決定した。
昭和55年8月	本学の関連教育病院(県立中部病院)について本学学長と沖縄県知事の間で協定を締結した。
10月	大学設置審議会大学設置分科会(浅田敏雄主査他4名)による医学科実施調査が行われた。
昭和56年3月	第1回医学部解剖体慰霊祭が解剖体保存棟前で行われた。

昭和56年4月 April,1981	保健学部が医学部保健学科に改組。保健学部附属病院は医学部附属病院となった。 The Faculty of Health Sciences, University of the Ryukyus, and its Hospital were reorganized into the School of Health Sciences, Faculty of Medicine, and Hospital of the Faculty of Medicine, University of the Ryukyus.
4月	医学部医学科31講座のうち8講座(解剖学第一、生理学第一、生化学第一、病理学第一、寄生虫学、内科学第一、外科学第一、眼科学)が先行設置され、保健学科は4大講座(基礎保健学、保健管理学、保健医療学、保健技術学)に再編成された。
4月	昭和56年度入学式(医学科100名、保健学科59名)が行われた。
April,1981	Students (100 medical and 59 health sciences students) were enrolled for the first term at the newly established Faculty of Medicine.
10月	医学部開学記念式典並びに祝賀会が開催された。
昭和57年4月	医学科に7講座(解剖学第二、薬理学、法医学、内科学第二、小児科学、放射線医学、整形外科)が設置され、計15講座となった。
10月	基礎講義実習棟、解剖法医棟及びポンプ室が竣工した。
12月	解剖学、生理学、生化学の講義及び実習が上原団地で開始された。
昭和58年2月	基礎研究棟及び保健学科棟が竣工した。
3月	保健学科及び医学科基礎系講座が上原団地へ移転した。福利棟(がじゅまる会館)が竣工した。
4月	医学科に7講座(生理学第二、細菌学、保健医学、皮膚科学、外科学第二、産科婦人科学、耳鼻咽喉科学)が設置され、計22講座となった。
10月	R I・動物実験施設が竣工した。
12月	臨床講義棟、附属病院、中央設備機械室が竣工した。
昭和59年1月	臨床研究棟が竣工した。

昭和59年3月	授乳施設、管理棟、附属図書館医学部分館、高エネルギー・高気圧治療施設棟が竣工した。
4月	医学科に6講座(病理学第二、ウイルス学、内科学第三、脳神経外科学、泌尿器科学、麻酔科学)が設置され、計28講座となった。医学部及び附属病院の事務部が一元化され医学部事務部となったことに伴い、事務組織が改編され事務部長、事務部次長、4課制(総務課、管理課、学務課、医事課)となった。
7月	7月1日～10月14日、新病院移転・開院準備のため休診となった。 7月1日～8月2日、附属病院が上原団地へ移転した。医学部施設竣工並びに医学部附属病院の開院記念式典が挙行された。
10月	医学部附属病院(400床)の完成に伴い、診療を再開した。
昭和60年3月	体育館、多目的運動場が竣工した。
4月	医学科に3講座(生化学第二、精神神経科学、歯科口腔外科学)が設置され、計31講座となった。附属病院に第三内科が新設され、計17診療科となった。附属病院の病床数が200床増床され、計600床となった。
6～7月	附属病院の200床増床に伴い、病棟移転が行われた。
昭和61年4月 April,1986	琉球大学大学院保健学研究科(保健学専攻、修士課程)が設置された。(定員10名) The Graduate School of Health Sciences (Master's degree program) was founded. (Enrollment quota was 10 students)
4月	保健学科の入学定員が臨時的に5名増員され、計65名となった。附属病院に高気圧治療部が設置された。
昭和62年3月	R I診療棟が竣工した。

昭和57年

建設中の医学部及び
附属病院
(西原町上原)



昭和58年

医学部及び附属病院の
全景
(西原町上原)



平成6年

旧与儀キャンパス跡の
記念碑建立
(那覇市与儀)



昭和62年4月	琉球大学大学院医学研究科(博士課程)(形態機能系専攻、生体制御系専攻、環境生態系専攻)が設置された。(定員数30名)
April,1987	The Graduate School of Medicine (Doctoral degree program) was founded. (Enrollment quota was 30 students)
7月	タイ国のチェンマイ大学と学術交流協定を締結した。
昭和63年4月	附属地域医療研究センターが設置された。(10年期限)
April,1988	The Research Center of Comprehensive Medicine was founded in this decade.
平成元年3月	リニアク診療施設棟が竣工した。
5月	附属病院に輸血部が設置された。
平成2年3月	附属地域医療研究センター棟が竣工した。
6月	医学部に臨床検査医学講座が新設され、計32講座となった。
11月	医学部開学10周年記念式典が行われた。
平成3年3月	MRI-CT装置棟が竣工した。 精神病棟(40床)が承認された。(一般病床から精神病棟へ) 中華人民共和国の中山医科大学と学術交流協定を締結した。 附属実験実習機器センターが設置された。
March,1991	The Research Laboratory Center was founded.
4月	医学部医学部に3学期制が導入された。
平成5年4月	附属動物実験施設が設置された。
April,1993	Institute for Animal Research was founded.
5月	英国医学協会(GMC)より海外有資格医師の限定登録の認可を受けた。
12月	高嶺徳明顕彰碑が建立された。
平成6年8月	特定機能病院として承認された。
平成7年4月	附属病院に血液浄化療法部が設置された。
平成9年4月	附属病院に医療情報部が設置された。

平成10年3月	附属地域医療研究センターが廃止された。
4月	附属沖縄・アジア医学研究センターが設置された。
April,1998	The Okinawa-Asia Research Center of Medical Sciences was founded.
平成11年4月	附属病院に周産母子センターが設置された。 医学科の入学定員が95名となった。
平成12年4月	附属病院に病理部が設置された。 保健学科の入学定員の臨時募集が廃止され、計60名となった。
平成13年4月	医学部に臨床薬理学講座が新設され、計33講座となった。 附属病院に光学医療診療部が設置された。 医学科に第3年次特別編入学(学士入学)制度が導入された。(定員数5名)
平成14年4月	医学部に救急医学講座が新設され、計34講座となった。
平成15年3月	附属沖縄・アジア医学研究センターが廃止された。 理学療法部が廃止された。
4月	医学部は34小講座が6大講座(形態機能医科学、地域環境医科学、病態解析医科学、生体制御医科学、器官病態医科学、高次機能医科学)に、保健学科は4大講座が6講座(基礎看護学、成人・老年看護学、母子看護学、地域看護学、生体検査学、病態検査学)にそれぞれ再編成された。 大学院医学研究科の3専攻が改組され医科学専攻(先進情報医科学領域、機能再生医科学領域、環境長寿医科学領域)及び感染制御医科学専攻(独立専攻)(感染分子生物学講座、分子感染制御学講座、感染病態制御学講座)が設置された。 リハビリテーション部が設置された。
平成16年4月	琉球大学は国立大学から国立大学法人へとなった。 大学院医学研究科修士課程医科学専攻が設置された。
April,2004	The University of the Ryukyus was reorganized by the National University Corporation from the National Universities. The Graduate School of Medicine (Master's degree program) was founded.
平成17年4月	事務組織が改編され、事務部長、経営企画監、5課制(総務課、経営企画課、経営管理課、医療支援課、学務課)となった。

平成18年2月	リハビリテーションセンター(作業療法棟)が竣工した。
10月	大韓民国の延世大学校と部局間国際交流協定を締結した。 モンゴルのモンゴル保健総合大学と部局間国際交流協定を締結した。 南アフリカ共和国のケープタウン大学と部局間国際交流協定を締結した。
平成19年3月	附属病院がエイズ診療拠点病院に指定された。
4月	大学院保健学研究科が改編され、修士課程が博士前期課程に、博士後期課程が新たに設置された。
April,2007	The Graduate School of Health Sciences (Doctoral degree program) was founded.
平成20年2月	附属病院が都道府県がん診療連携拠点病院に指定された。
4月	事務組織が改編され、医学部事務部、附属病院事務部(事務部長、課制(総務課、経営企画課、経営管理課、医療支援課))となった。
平成21年4月	医学部に第2年次特別編入学(学士入学)制度が導入された。(定員数5名)医学科の入学定員が7名増員され(内2名は9年期限)、計102名となった。
11月	附属病院が沖縄県肝疾患診療連携拠点病院に指定された。
平成22年4月	大学院医学研究科が大学院講座化(部局化)され、医科学専攻(3コース、33講座)、感染制御医科学専攻(1コース、8講座)に再編された。 医学科の第3年次特別編入が廃止された。 医学科の入学定員が5名増員され、計107名となった。 附属病院に骨髄移植センターの設置が認可された。
平成23年1月	附属病院に寄附講座(地域医療システム学講座、地域医療教育開発講座)が設置された。
4月	事務組織が改編され、事務部長5課制(総務課、経営企画課、経営管理課、医療支援課、学務課)となった。
12月	卒後臨床研修センター・血液浄化療法部棟が竣工した。
平成24年3月	おきなわクリニカルシミュレーションセンターが竣工した。
4月	病理診断科が設置された。

平成25年2月	機能画像診断センターが竣工した。
平成26年2月	台湾の台北医学大学と部局間国際交流協定を締結した。
3月	フィリピン共和国のフィリピン大学公衆衛生校と部局間国際交流協定を締結した。
4月	大学院医学研究科博士課程の2専攻を改組し、医学専攻が設置された。(定員数30名)
10月	ラオス人民民主共和国のラオス保健科学大学と部局間国際交流協定を締結した。
11月	救急災害医療棟が竣工した。
12月	沖縄県地域医療支援センターが設置された。
平成27年2月	附属病院に救急科が設置された。
3月	附属病院に形成外科が設置された。
4月	医学科の入学定員が5名増員され、計112人となった。 大学院医学研究科にウイルス学講座、臨床研究教育管理学講座が新設され、計42講座となった。 再生医療研究センターが設置された。 附属病院の検査部と輸血部が統合され、検査・輸血部が設置された。
平成28年4月	附属病院にリハビリテーション科が設置された。
8月	臨床工学室が設置された。
10月	在宅医療推進センターが設置された。
平成29年9月	超音波センターが設置された。
平成30年4月	形成外科学講座が新設された。
11月	医学教育分野別認証評価認定を受けた。



高嶺徳明が、1689年全身麻酔で補歯術を行ったことに由来する顕彰碑
(沖縄県医師会寄贈、医学部構内)

保健学部長

松林久吉 (初代保健学部長)	昭和 45 年 9 月
崎山彦勇	昭和 48 年 9 月
西浦正輝	昭和 50 年 9 月
杉屋正寛	昭和 52 年 9 月
照屋寛善	昭和 54 年 9 月

医学部長

大鶴正満 (初代医学部長)	昭和 54 年 10 月
永盛肇	昭和 62 年 4 月
大澤炯	平成 3 年 4 月
茨木邦夫	平成 5 年 4 月
平山清武	平成 9 年 4 月
柊山幸志郎	平成 10 年 4 月
岩政輝男	平成 12 年 4 月
坂梨又郎	平成 16 年 4 月
佐藤良也	平成 20 年 4 月
須加原一博	平成 23 年 4 月
松下正之肇	平成 25 年 4 月
石田正肇	平成 29 年 4 月

大学院保健学研究科長

大鶴正満 (初代大学院保健学研究科長)	昭和 61 年 4 月
竹中静廣	昭和 62 年 4 月
石津宏	平成 元年 4 月
竹中静廣	平成 3 年 4 月
宮城一郎	平成 4 年 4 月
普天間弘造	平成 6 年 4 月
崎原盛造	平成 7 年 4 月
石津宏造	平成 10 年 4 月
河野伸造	平成 12 年 4 月
外間登美子	平成 16 年 4 月
高倉実	平成 22 年 4 月
福島卓也	平成 26 年 4 月

大学院医学研究科長

佐藤良也 (初代大学院医学研究科長)	平成 22 年 4 月
須加原一博	平成 23 年 4 月
松下正之肇	平成 25 年 4 月
石田正肇	平成 29 年 4 月

保健学部附属病院長

植村操 (初代保健学部附属病院長)	昭和 46 年 7 月
田端辰夫	昭和 48 年 11 月
榎屋富一	昭和 50 年 1 月
鈴木淳	昭和 51 年 4 月
正三義之郎	昭和 53 年 4 月
三村悟郎	昭和 55 年 4 月

医学部附属病院長

小張一峰 (初代医学部附属病院長)	昭和 56 年 4 月
福田雅俊	昭和 62 年 4 月
茨木邦夫	平成 3 年 4 月
平山清武	平成 5 年 4 月
柊山幸志郎	平成 9 年 4 月
小椋力	平成 10 年 4 月
金澤浩二	平成 12 年 4 月
古謝景春	平成 14 年 4 月
瀧下修一	平成 16 年 4 月
須加原一博	平成 20 年 4 月
村山貞之	平成 23 年 4 月
國吉幸男	平成 26 年 1 月
藤田次郎	平成 27 年 4 月
大屋祐輔	平成 31 年 4 月

琉球大学医学部は、わが国で最も新しい国立大学医学部として昭和 54 年に設置され、昭和 56 年から学生の受け入れを開始しました。また、その 13 年前に医学部の前身である保健学部が設置されています。現在では、医学部に医学科と保健学科が、大学院には医学研究科(修士課程、博士課程)、保健学研究科(博士前期課程・博士後期課程)が設置されています。また、平成 22 年度から大学院医学研究科が大学院講座化され、医学科教員はすべて大学院教員になりました。

教育においては、高い倫理観を備えた質の高い医療人の教育・養成を目指し、医学、保健学、医療技術学に関する普遍的な教育を実施しています。また、島嶼県沖縄の地域医療を充実させるために、平成 21 年度から沖縄県と協力して沖縄県出身の学生を地域枠として医学科に受け入れ、離島地域病院実習を含む地域医療教育に力を入れるとともに、国際医療の場でリーダーシップを発揮できる医療人材を養成するために海外での臨床実習を導入しています。その結果もあり、平成 30 年に日本医学教育評価機構(JACME)から評価基準に適合しているとして認定を受けました。さらに、大学院研究科では沖縄の地域特性に根ざした医学・医療の課題を解決する研究者、指導者を養成するための教育・研究を進めています。

研究面では、がん、脳疾患、循環器疾患などの先進的な研究に加え、わが国で唯一の亜熱帯気候下に位置する島嶼県という沖縄の地域特性に根ざした特色ある研究に力を入れています。具体的には、熱帯・亜熱帯環境下での感染症研究、長寿県沖縄の復興を目指す長寿医学、急速な生活習慣の変化にともなう代謝疾患、生活習慣病の予防、狭い婚姻圏に由来する遺伝性疾患、琉球列島の成り立ちと関連した人類遺伝学、東南アジア地域での国際保健などの領域で活発な基礎的・臨床的研究を進めています。さらに、平成 27 年度は、沖縄県の再生医療中核拠点として、再生医療研究センターを新設し、再生・発生分野の研究を進めています。



診療面では、沖縄県で唯一の特定機能病院であり、エイズ診療拠点病院、がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院などの指定、骨髄移植センターの設置により感染症やがん、心臓・循環器疾患、肝疾患、骨髄移植などの高度医療を担うとともに、離島医療を含む地域医療の充実にも寄与しています。また、卒後臨床研修病院として RyuMIC プログラムを推進しており、他の病院群では出来ない臨床研修プログラムを提供しています。特に県や医師会などと協力して、オール沖縄の観点から「おきなわクリニカルシミュレーションセンター」を平成 24 年 3 月に開設しました。同センターは、県内全ての医療系学生及び医療関係者が利用可能であり、多彩なシミュレーターや医療機器を保有しているため、基礎から生涯教育まで、レベルに応じた教育・研修ができ、医療人や学生が活用しています。また、平成 24 年度に FIMACC(機能画像診断センター)を開設し、平成 26 年度には災害医療と救急医療の機能を兼ね備えた救急災害医療棟を新設し、平成 30 年度に地域災害拠点病院に指定されています。さらに、平成 26 年度に沖縄県の施策として、医師の地域偏在を解消することを目的に「沖縄県地域医療支援センター」が開設されました。今後、医学生や医師のキャリア形成支援や、医師不足病院等への支援を行っていきます。

社会貢献として、地域住民の健康維持・福祉の充実に多大な貢献をしていることはもちろん、沖縄の生物資源を健康に応用する研究などを通じて地域産業の育成にも積極的に関わっています。また、「子どもの健康と環境に関する全国調査」(エコチル調査)を実施しています。国際貢献としては、ラオスやエチオピアでの口唇口蓋裂患者の巡回無料診療(手術)の活動などが高い評価を受けてきたほか、他地域での国際医療協力などに積極的に参加しています。

教育における特色

医学教育(医学教育企画室)

医学教育企画室は、質の高い医療人の育成および沖縄県の医療水準向上のために、学生指導や臨床実習プログラムの企画・実施など医学教育全般に係る業務を遂行しています。室長(併任)の他、専任教員2名と事務職員4名に加えて、10名程度の企画室員(併任)によって構成されています。臨床実習以外にも、医療現場におけるコミュニケーション能力や初歩的診察スキルの取得を目的としたシミュレーション演習、将来のキャリア・パスについて考える医学概論、チーム基盤型学習(TBL)形式でのチュートリアル学習、患者・家族と直接に接触する各種実習[外来患者付添い実習、体験学習(療養型施設・沖縄愛楽園訪問見学実習)、離島地域病院

実習、離島診療所及び海外の大学病院での参加型臨床実習]も担当しています。また学務課と協力して、医学科4年次対象の共用試験(CBT・OSCE)、医学科6年次対象の臨床実習後OSCE(Post-CC OSCE)の実施にも関わっています。さらに、医学科5年次・6年次の総合試験の取りまとめも行っています。日々医学部生と向き合い、学習支援・修学相談等も行い、本学が国際基準に適合した医学教育を提供できるように努めています。



[写真:シミュレーション演習風景(一次救命処置)]

長寿県沖縄の島嶼地域医療人材養成(保健学科)

日本と東・東南アジアとの接点に位置する島嶼県沖縄は、国内有数の長寿地域として知られていました。しかし2013年の都道府県別平均寿命は女性が1位から後退して3位、男性は30位であり、「330ショック」として沖縄の医療関係者に大きな衝撃を与えました。要因として食生活の変化による生活習慣病の増加が挙げられます。一方で沖縄県の島嶼部は高齢化が進んでおり、高齢者医療の充実が大きな課題となっています。

保健学科は看護師、保健師、助産師、養護教諭を養成する看護コースと臨床検査技師、健康食品管理士を養成する検査技術コースからなり、沖縄県の健康長寿の復活を目指し、

また沖縄県民が安心して医療を受けられるよう、地域医療、保健医療に貢献する人材を育成しています。学生は経験豊かな教員陣から広範囲な知識を得る一方、早い時期から地域医療機関での実習を行うことで、高い実践力を養い、地域に根付いた医療が出来るよう実力を蓄えていきます。そのほか東南アジアの国々との交流を経て、グローバルな視点から地域問題を考えていく力を養います。

保健学科は沖縄県の地域医療を牽引するリーダー、教育・研究に携わる教員、国際社会で活躍するグローバル人材の育成に努めています。

アジア・太平洋地域との学術交流(保健学研究科)

保健学研究科は、人間健康開発学と国際島嶼保健学の2領域で構成されており、沖縄県の社会文化的環境および亜熱帯性自然環境を基盤とした健康・長寿の維持増進および再生に資する研究や、健康資源の解明に関する研究、アジア・太平洋地域の島嶼・僻地・地域保健の課題とその対策に関する研究などのユニークなテーマに取り組んでいます。この2つの領域は互いに融合し、亜熱帯性自然環境を基盤とした研究から得られた成果は、アジア・太平洋・アフリカ諸国での保健医療の増進に寄与し、さらに僻地での教育活動を通してそれらを支える人材の育成にも貢献しています。

具体的な活動として、現在アジア・太平洋諸国の研究機関(フィリピン大学、タイ・チェンマイ大学、ラオス国健康科学大学、インドネシア・アイルランガ大学など)と交流協定

を締結し、積極的な人材交流と共同研究を推進しています。

またOkinawa Global Health Science Programの下、これらの国から大学院生を迎え、グローバルヘルスに関する研究を展開しています。

保健学研究科修士生は、各国保健医療機関、WHOなどで施策に携わるなど、グローバルヘルスの分野で活躍しています。これからもグローバル人材の育成を目指します。



医学研究科・保健学研究科

医学研究科は、近年の医学・医療のダイナミックな変化や社会的なニーズに対応できる自己改新力と生涯持続力を持った優れた人材を育成することを目的としています。博士課程では、健康長寿や新興感染症問題等の沖縄の地域に根ざした問題やES細胞・iPS細胞の確立により近年著しく進歩している再生・発生分野の研究等、研究プロジェクトに対応したコースワーク・リサーチワークを編成しました。修士課程では、この新しい教育課程を取り入れ、博士課程と連携した体系的な教育プログラムを提供しています。

保健学研究科は、1986年に国立大学2番目の保健学専攻の大学院として設置された伝統ある研究科で、数多くの優れた人材を輩出して沖縄県の公衆衛生の向上、保健医療の発展のために多大な貢献をしてきました。2007年に博士課程を設置し、現在の保健学研究科保健学専攻博士前期課程・博士後期課程となりました。本研究科は、心身ともに豊かな健康・長寿に資する高度な研究能力を有する保健学分野の研究者および指導者を養成することを目指しています。修士生からは保健医療機関、行政のリーダーだけでなく、研究や教育に携わる大学教員も数多く輩出しています。

臨床教育(附属病院)

琉球大学医学部附属病院では「病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、国際性豊かな医療人を育成する」という理念に基づき、「高い人間性」を持ち患者本位の質の高い医療を提供できる医療人の養成、「高い専門性」や「豊富な知識」に基づく総合力を発揮し先進医療の開発・推進を担う人材の養成に努めています。

沖縄県の医療者育成は全国で非常に高い評価を受けており、附属病院は其中で中心的な役割を果たしています。医師では、医学部学生、初期研修医、専門医をめざす専門専攻医などに対して、地域医療に配慮した多彩な研修プログラムに加えて、熱意のある指導者のもと屋根

瓦式の教育体制が取られています。また、大学内に設置された全国有数のシミュレーションセンターを用いた研修も教育の質の向上に寄与しています。同時に、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、リハビリセラピスト、ME技師など、多くの医療職種の教育・研修も計画的に実施し、より質の高い医療をチーム医療で実践していけるように努めています。これらの教育は、人材育成だけに留まらず、地域医療の充実、臨床研究の推進、さらに、「医療の安全のさらなる向上」に大きく寄与しています。

シミュレーション教育 おきなわクリニカルシミュレーションセンター

おきなわクリニカルシミュレーションセンターは、沖縄県の寄付により平成24年3月に琉球大学医学部構内に開設された医療シミュレーション教育施設です。模擬環境を活用することで、医療現場での実践前に手技に習熟する、突発事態への対応とチームワークを予め練習しておくといったトレーニングを通じて、沖縄県内の医療水準の向上に貢献しています。特に医療安全の確保は病院の最も重要な役割のひとつであり、注力しているところです。

本学の医学部学生の実技演習に加え、当施設の事業として沖縄県内の研修医向けの教育企画シリーズ、シミュレーション教育指導者向けのセミナー、県内小中高生向けの医療者体験イベントなどを開催しています。また、県内の医療教育機関および医療機関に幅広くご利用いただいています。

開設から7年を経て、年間およそ延べ1万8千人の利用があり、当施設でシミュレーション教育の技能を習得した指導者が県内全域で活躍しています。今後さらに多くの方々に活用していただけるように改善を進めたいと思います。

各種情報については<http://okinawa-clinical-sim.org/>をご参照ください。



研究における特色①

肺高血圧症のメカニズム解明：骨髄の一酸化窒素合成酵素が関与

肺高血圧症は、心臓から肺に血液を送る肺動脈が狭くなり血圧が上昇して右心不全と早期死亡をきたす疾患です。肺高血圧症は病因により5群に分類されます。第1群の肺動脈性肺高血圧症は国が難病に指定するまれな疾患ですが、5群すべてを含めると世界に約1億人の患者がいると推定され肺高血圧症は患者数が多い疾患です。肺高血圧症の予後は癌全体の予後と同等かそれよりも悪く、有効な治療法の開発が待たれています。しかし、発症機序がよく分かっていないので治療法の開発が進んでいません。

一酸化窒素 (NO) はヒトの体内において産生されるガス状生理活性物質です。NO 合成酵素 (NOSs) 系は3つのアイソフォームで構成されています (nNOS, iNOS, eNOS)。過去に肺高血圧症と骨髄異常に関連があることが報告されていますが、肺高血圧症における骨髄 NOSs 系の役割は不明です。そこで私達 (薬理学講座 筒井 他) は、この点を私達の NOSs 系完全欠損マウス (triple n/i/eNOSs 欠損マウス) を用いて検討しました。

最初に臨床研究を行いました。特発性肺線維症患者において、肺動脈収縮期圧と気管支肺胞洗浄液中 NOx 濃度 (肺の NO 産生の指標) には逆相関が認められました。この結果は第3群肺高血圧症において肺の NO 産生が低下していることを示す初めての知見です。この臨床の結果を踏まえて、

私達は次にマウスを用いた基礎研究を行いました。野生型、nNOS 欠損、iNOS 欠損、eNOS 欠損、及び triple NOSs 欠損マウスに3週間の低酸素暴露を行うとすべてのマウスにおいて肺高血圧が誘発されましたが、その程度は野生型マウスに比して triple NOSs 欠損マウスで際立って顕著でした (図1)。緑色蛍光蛋白質 (GFP) 発現マウスの骨髄を移植した triple NOSs 欠損マウスでは、低酸素暴露後の肺動脈病変に GFP 陽性細胞が認められ、肺動脈リモデリングにおける骨髄の関与が示唆されました (図2)。

重要なことに、triple NOSs 欠損マウス骨髄の移植は野生型マウスの肺高血圧を悪化させ (図3)、逆に野生型マウス骨髄の移植は triple NOSs 欠損マウスの肺高血圧を改善させました。

以上本研究では、骨髄 NOSs 系が肺高血圧において保護的役割を果たしていることを明らかにしました (図4)。この結果から、骨髄 NOSs 系が肺高血圧における重要な治療標的であることが示唆されました。今後、この知見を踏まえて、肺高血圧症に対する全く新しい治療法の開発が期待されます。本研究は琉球大学、産業医大、長崎大学、東北大学との共同研究です。研究成果は呼吸器分野のトップジャーナル *Am J Respir Crit Care Med* 2018 に掲載されました。

図1. 低酸素暴露Triple NOSs欠損マウスにおける肺血管病変形成の増悪

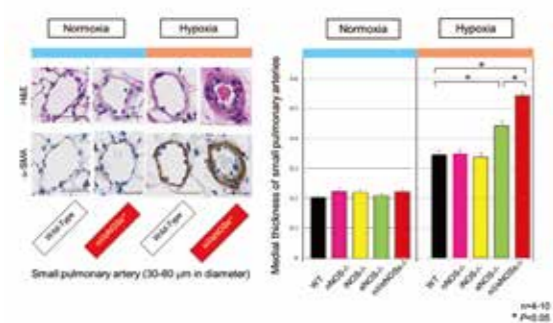


図2. 低酸素暴露Triple NOSs欠損マウスの肺血管病変形成における骨髄の寄与

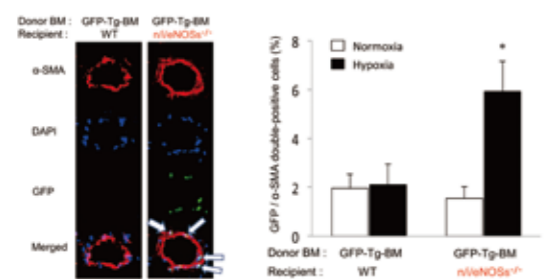


図3. Triple NOSs欠損マウス骨髄の移植は野生型マウスの肺高血圧を悪化させる

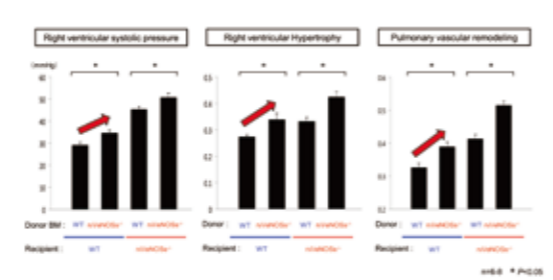
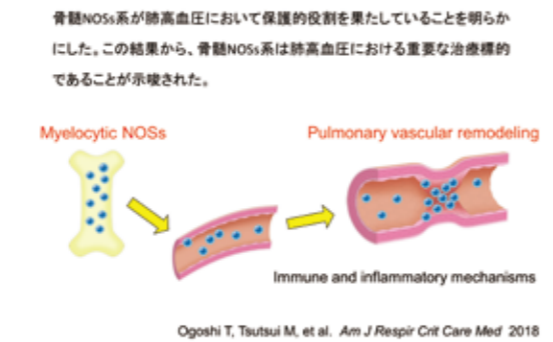


図4. 肺高血圧における骨髄NOSs系の保護的役割



研究における特色②

沖縄に多発する最も難治の血液がんとう！ ～発症メカニズム解明と画期的治療法の開発を目指して～

がんゲノム研究の革新的な進歩によって、分子標的薬や免疫療法薬が次々と開発され、血液がんの予後は大きく改善しました。一方、未だに有効な治療法に乏しく、殆ど治療が望めない難治のがんが存在します。九州・沖縄に多発する成人T細胞白血病リンパ腫 (ATLL) はその代表格です。内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座 (第二内科) では ATLL の発症メカニズム解明と新たな治療法の開発を目指し、先進的な研究に取り組んでいます。

1) 沖縄県の ATLL の予後解析

我々は最近、沖縄県の ATLL 患者 433 例の予後を解析し、3 年全生存率が 12.3% と極めて低いことを報告しました (*Cancer Sci* 2018)。ATLL の治療が望める唯一の治療法は同種造血幹細胞移植と考えられていますが、琉球大学を中心に同種造血幹細胞移植を施行した沖縄県内の ATLL 患者の移植成績は満足できるものではないこと、特に移植後の合併症が問題になることを明らかにしました (論文投稿中)。ATLL に対する有効な治療法の開発が急務の課題であることを再認識させられました。

2) ATLL の免疫回避機構とヒト白血球抗原 (HLA)

ヒト T 細胞白血病ウイルス I 型 (HTLV-I) は母乳を介して感染し、一部のキャリアで免疫監視から回避した細胞が ATLL 発症に繋がると推測されます。HLA 分子は免疫応答を誘導するために必須の分子であり、がん細胞に HLA の異常が起こると免疫から逃れやすくなります。HLA の遺伝子領域は免疫関連遺伝子が密集しており、ヒトゲノムの中で最も多型に富む領域のため、次世代シーケンサーを用いた大規模ながん全ゲノム解析においても HLA 領域の詳細な解析は難しく、がん HLA の関係については未解明な点が多く残されています。我々は、これまで同種造血幹細胞移植の免疫反応と HLA の意義を明らかにしてきました (*Blood* 2018)。現在、HLA 領域に特化した詳細な遺伝子解析を行うことにより、ATLL 細胞が HLA を介して免疫から逃れるしくみの解明に取り組んでいます。

3) ATLL におけるリン酸化 STAT3 の意義

細胞の増殖・分化において JAK-STAT 経路が重要な役割を果たし、血液がんをはじめ、発がんメカニズムとの関連性が注目されています。ATLL における JAK-STAT 経路の活性化の意義を明らかにするため、細胞病理学講座との共同研

究により患者の病理組織学的解析と病変部位の STAT3 遺伝子解析を行っています。解析結果から、活性化されたリン酸化 STAT3 が ATLL の新たなバイオマーカーとなる可能性が示唆されました。(論文投稿中)。

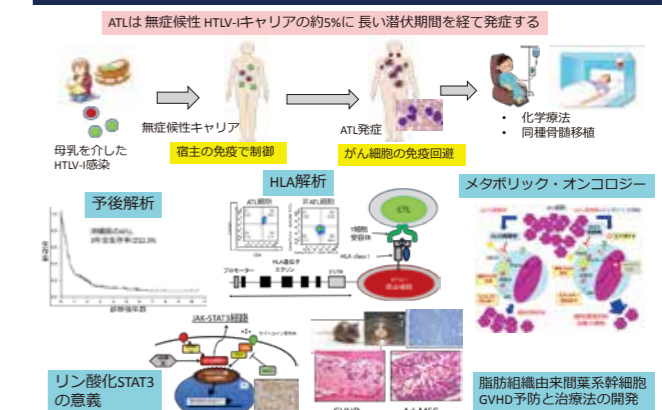
4) 糖代謝機構の側面から難治性血液がんに対する新しい治療法の可能性を探る (メタボリック・オンコロジー)

解糖系に依存するがん細胞の代謝特性により、グルコースの取り込みがさかんになる効果を利用した FDG-PET/CT 検査は、がん病変部位の検出に汎用されています。我々は放射線診断治療学講座との共同研究により ATLL 悪性度の階層化に PET 検査が有用であることを明らかにしました (*Hematology* 2017)。さらに、がん細胞の糖取り込みをブロックする新しい血液がん治療の臨床応用を目指し、糖尿病治療薬である sodium-glucose cotransporter 2 (SGLT2) 阻害剤の抗 ATLL 効果の解析を進め、メタボリック・オンコロジーという概念の商標登録化に成功し、2 件の特許を出願中です。

5) 脂肪組織由来間葉系幹細胞を用いた急性移植片対宿主病の予防及び治療への応用

ATLL では可能な限り同種造血幹細胞移植を施行して治療を目指しますが、合併症である移植片対宿主病 (GVHD) が重症化することが問題です。我々は、脂肪組織由来間葉系幹細胞 (Ad-MSC) の免疫抑制効果に着目し、寄生虫・免疫病病因病態学講座との共同研究により Ad-MSC がマウスモデルの GVHD に伴う骨髄不全に対して優れた改善効果があることを明らかにしました (*Transpl Immunol* 2019)。移植後合併症軽減に向けた臨床応用に結び付けることを目指します。

沖縄に多発する最も難治の血液がん成人T細胞白血病/リンパ腫 (ATLL) の発症メカニズム解明と画期的治療法の開発を目指して



研究における特色③

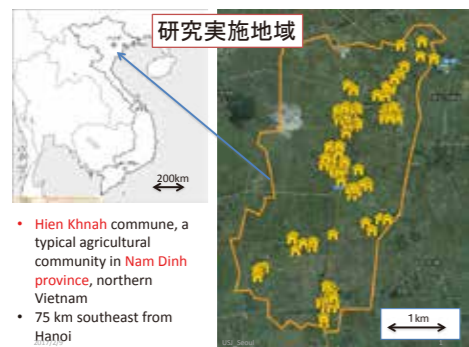
ベトナムの下痢症

琉球大学大学院医学研究科細菌学講座では、主な研究のテーマとして、1. コレラ菌の研究、2. レプトスピラの研究、3. 東南アジアにおける下痢症の研究を行っております。その中で、今回は、科学研究費を頂いているベトナムにおける下痢症の研究の一部をご紹介します。

2012年のデータによると、全世界の5才未満の小児の死亡760万人の内、64%（約490万人）が感染症によるものとされています。そのうち、下痢症による死亡は、新生児期の症例も含めると約11%（約80万人）で、肺炎に次ぐ第2位を占めております。ベトナムでは下痢症により毎年約1万5000人が命を落とすとされており、起炎微生物の詳細は不明でした。そこで我々は、北部ベトナムナムディン省にある典型的な農村地区であるヒエンカイン村に下痢症のコホート研究エリアを設定し、下痢症の発生動向およびその危険因子の推定、下痢起炎微生物の解明、に取り組みました。ヒエンカイン村では、5歳未満小児を有する約300家屋、1,662人を対象にして下痢症の疫学研究を実施いたしました。これは全住民の約15%に相当します。我々の調査によると、この地域住民の約75%はいわゆるベトナムにおける中等度以上の生活レベルを維持しておりました。下痢症の定義としてWHO等で広く使用されている、「1日に3回以上の水様または軟便の排出」を用いました。調査の結果、40%以上の調査対象住人が、約13か月間の調査期間中に1回以上の下痢を呈しました。中には調査期間中に8回も下痢を起こした患者もおりました。下痢を起こした患者の年齢割合をみると、5歳未満小児群において約50%の対象者が調査期間中に1回以上の下痢を示し、他の年齢群に比較して高い傾向を示しました。この地域では生活用水や飲料水用に、水道水、天水（雨水）、井戸水、河川や湖沼からの採取水を利用しておりましたが、興味深い事に水道水を利用する群は他群に比較して下痢を起こす相対危険度が高い傾向にあり、逆に天水を利用する群は

低い傾向を示しました。可能性として水道水中に何らかのかたちで微生物が混入することが考えられますが、慎重に解釈をする必要があると思われました。また、この地域では約80%の家屋が簡易式の水洗トイレを用い、いわゆる溜め込み式のトイレ利用者は20%以下程度でした。溜め込み式トイレ利用者群は、他の群に比較して下痢を起こす相対危険度が高い傾向を示しました。具体的な証左には乏しいものの、溜め込み式トイレの汚物貯留槽の構造がぜい弱で、汚物中の微生物による周辺環境の汚染が根底にある可能性が考えられました。

調査地域における下痢症起炎微生物を推定するために、対象住民の平時の便（正常便）中、および調査期間中に採取した下痢便中の下痢原性微生物（下痢原性細菌、胃腸炎ウイルス、下痢原性原虫）の検出を試み、その分布を比較してみました。その結果、下痢便中に、いわゆる下痢原性大腸菌および赤痢アメーバが多く検出される傾向を示し、調査地域においてはそれらの下痢原性微生物が下痢症の発生に大きく関与している可能性が示されました。以前同地域で実施した病院基盤の下痢症研究においては、下痢原性大腸菌および赤痢アメーバに加えて、ロタウイルス、ノロウイルス、クロスティリディオイデス（クロストリジウム）・ディフィシレ等の下痢原性微生物が高頻度に分離され、今回とは大きく異なる結果となりました。これはつまり、生活の現場であるコミュニティで観察される下痢症と、重症例が多くなる医療施設で観察される下痢症とは、その起炎微生物の様相が大きく異なることを示唆するものであると思われ、下痢症の全体像を把握する上で重要なことだと思われました。地道な研究スタイルで、調査地域の住民、行政担当者、研究者等多くの方々の協力を必要といたしますが、大切な研究だと思っております。このような研究を沖縄県をフィールドとして実施したいという希望を持っております。興味がある方は一緒にやってみませんか。宜しくお願いいたします。



研究における特色④

脂肪組織由来幹細胞ストック・供給プロジェクト

琉球大学医学部附属病院は沖縄県唯一の大学病院として、2015年より再生医療研究を積極的に推進し、数々の成果を挙げています。現在は、ヒトの脂肪組織の中にある脂肪組織由来幹細胞をストックし、産業利用するためのプロジェクトを推進しています。

1. 脂肪組織由来幹細胞とは

近年、脂肪組織の中から、脂肪、骨、軟骨、筋肉などに分化することのできる幹細胞が発見され、脂肪組織由来幹細胞と名付けられました。脂肪組織由来幹細胞は、全身に広く分布する脂肪組織から容易に抽出でき、十分な量を確保し易いことから、再生治療用の幹細胞として非常に有望だと考えられています。将来的には、幹細胞治療薬として実用化されると言われています。今後、この脂肪組織由来幹細胞を用いた再生治療研究が進歩していけば、さまざまな疾患の治療に役立ちます。

2. 脂肪組織由来幹細胞を用いた再生治療研究

琉球大学医学部では脂肪組織由来幹細胞を用いた再生医療を実用化するために、GMP準拠の細胞培養加工施設を2015年3月に完成させました。細胞培養加工施設内では、患者さんからいただいた脂肪組織から安全かつ無菌的に脂肪組織由来幹細胞を抽出し、大量に培養することができます。この大量培養された脂肪組織由来幹細胞は、再び患者さんへ戻されて移植投与されます。附属病院形成外科と再生医療研究センターは2015年4月より「再生医療等安全性確保法」に則った再生医療を実施する準備を行い、2016年3月から現在までに大量培養された脂肪組織由来幹細胞を顔面陥凹性病変の患者さん5名に移植投与しています。これらは顔面変形に対する国内初の培養脂肪組織由来幹細胞移植として、再生医療の発展に大きく貢献しました。

3. 脂肪組織由来幹細胞ストックプロジェクト

上述の成果をもとに、脂肪組織由来幹細胞を100検体



琉球大学医学部に建設された細胞培養加工施設

以上をストックすることを目標にした「脂肪組織由来幹細胞ストックプロジェクト（沖縄県再生医療産業活性化推進事業）」を2017年より開始しました。脂肪組織由来幹細胞は患者さんごとにその性質や能力が大きく異なります。背景の異なるさまざまな患者さんの脂肪組織由来幹細胞をストックしてその性質を調べることで、今後の幹細胞利用のためのノウハウを収集し、将来的な産業利用のための基盤を整備しています。

4. 脂肪組織由来幹細胞供給プロジェクト

脂肪組織由来幹細胞を集めてストックするだけでは、製薬企業等が創薬原料などに幹細胞を利用できません。これを創薬原料などに産業利用するためには、倫理的あるいは法律的な課題をクリアする必要があります。しかし、現在の日本ではその課題をクリアする仕組みがありません。そこで、琉球大学はこの本邦初の仕組みづくりに挑みます。その一環として、我々は、脂肪組織由来幹細胞を含むさまざまな体性幹細胞を企業に供給するプロジェクトを2018年から推進しています。このプロジェクトはAMED（日本医療研究開発機構）より受託した「琉球大学を起点としてヒト（同種）体性幹細胞原料供給システムの構築」です。琉球大学は、このプロジェクトで本邦初となる産業利用倫理審査委員会を新たに設置し、適切な審査承認体制の下に体性幹細胞を企業等に供給する仕組みをつくります。これにより、企業における細胞製剤などの研究開発が加速し、難病に苦しんでいる多くの患者さんに明るい未来をもたらすことができるでしょう。このように、琉球大学が率先して再生医療を発展させることで、沖縄を起点とした再生医療産業の集積化を実現できるのではないかと考えています。琉球大学は、県民に健康面だけでなく経済面でも福音をもたらす、沖縄県の活性化に貢献することも目指しています。



新たに設置予定の産業利用倫理審査委員会を通じた脂肪組織由来幹細胞の企業への供給の流れ（案）

診療における特色①

安心、安全で質の高い医療の提供を目指して

診療情報管理センターは診療記録管理、病院情報管理システム（電子カルテ）の管理運用、医師事務作業補助を担当し、医療者を支援する部門です。この3つの業務は円滑な医療行為の実現に非常に重要で、当院ではこれら一つの部署で行うことで効率化を図っています。

当院では診療録をコンピュータで管理する電子カルテを採用しています。当センターの最大の目的は、効率的かつ円滑に電子カルテを使用した医療が行えるようにすることです。その結果、患者さん一人一人の診療情報の正確な保存が行われ、現在および将来の医療に活かすことができると考えています。更に、当センターでは毎日カルテの内容をチェックしています。診察、検査を行った記録の有無だけでなく、医療従事者が患者さんへ説明した文書とカルテへの記録があるか、その内容は適切であるかなどに関しても監視し、不備な点に関しては改善を促しています。これらのことにより患者さんの立場に立った、安心、安全な医療の提供に貢献しています。

そして、診療録を厳密に管理することにより外部に情報が漏れることを防止し、個人情報保護にも万全を期しています。

また、当センターでは医師事務作業補助者による医療文書の作成補助、電子カルテの代行入力などを通して医師の負担軽減を図り、医師が本来の医療行為に集中できるように努めています。

当院は沖縄県で唯一の特定機能病院であり、高度の医療の提供、教育、研究を行っています。当センターでは集約される診療情報を分析し、当院の診療、教育、研究の役に立つ情報を提供しています。医学とは、病気の予防・診断および治療を目的として、研究を行う学問です。診療情報の分析は医学の発展に大変重要と考えられています。

当センターは直接患者さんの診療に関わることはありませんが、上に述べたようにカルテの管理、医師の補助などを通じて安心、安全で質の高い医療の提供に大きく関わっています。これからも患者さんのため、当院の医療、教育、研究の発展のため全力を尽くして参ります。

診療情報管理センター体制図

安心、安全で質の高い医療の提供を支援



診療における特色②

QOL向上への取り組み：地域完結型高度医療の提供、研究を臨床・教育へ

1. はじめに

沖縄県は周囲を海に囲まれ大小の島からなる島嶼環境にあり、航空機が発達した現代でも医療へのアクセスには制限を受けています。このことから私たちは他府県に行かなくても高度医療を受けることができるように耳鼻咽喉科に関する全ての分野で地域完結型高度医療を提供しています。

耳鼻咽喉科は、頭頸部領域の中で上方は頭蓋内・眼科領域、下方は胸腔内を除く全疾患を対象として、内科・外科の両面からアプローチする診療科です。生命に直結する上気道障害から、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚などの感覚器障害、音声言語を介するコミュニケーション障害、咀嚼・嚥下に関連する摂食障害、顔面神経麻痺、頭頸部腫瘍（舌・口腔癌、咽頭癌、喉頭癌、甲状腺癌、鼻副鼻腔癌など）、腫瘍摘出後機能・形態再建、顔面・頸部の先天性奇形・外傷など、広範多岐にわたる診療をおこなっています。これを可能にするために形成外科、放射線科、腫瘍内科、境界領域の診療科、との緊密な連携を築いています。また、基礎研究は臨床とリンクしなければならないとの信念のもとに臨床応用を目指した研究に取り組んでいます。研究テーマは頭頸部腫瘍領域（ヒト乳頭腫ウイルス感染、生活習慣に関わる遺伝子多型、抗がん剤の効果と薬物代謝に関与する遺伝子多型、樹状細胞治療、腫瘍内低酸素に関連する遺伝子、モレキュラーイメージングなど）、音声・嚥下・形成領域（脳機能画像を用いた顔面神経麻痺、音声障害、嚥下障害の評価と治療への応用）、鼻科領域（内反性乳頭腫の発生、再発、悪性化に関する分子生物学的研究）、耳科領域（先天性難聴に関与する遺伝子多型、自己免疫性内耳疾患、内リンパ嚢による水電解質代謝制御機構、脳機能画像を用いた耳鳴、難聴の解析）など多岐にわたります。

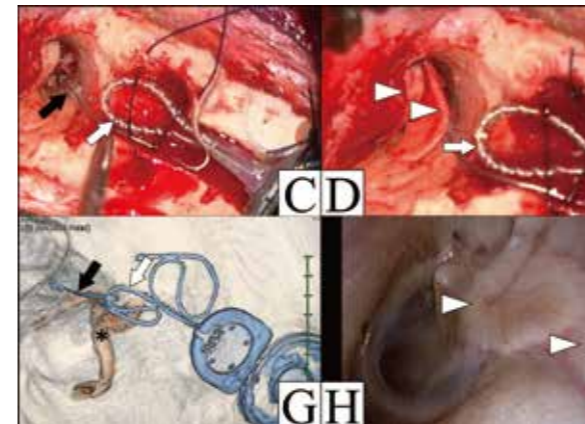


図1 新規変異（CHD7）を同定したCHARGE症候群。中内耳奇形があり、新たに考案した人工内耳手術で良好な聴覚を獲得できた。（Otol Neurotol 2017,一部改変）

2. 高度医療について

多くの高度医療をおこなっていますが、そのうちのいくつかを紹介します。

人工聴覚器手術には、人工内耳・人工中耳・埋込み型骨伝導補聴器などがあり、当講座では九州沖縄地区では最も早く人工内耳手術を導入しました。1988年に第1例を手術し、これまでに170件を超える手術を行っています。近年は、難聴遺伝子解析により効果予測を行い手術術式について独自の改良をおこなっています（図1）。

沖縄県の頭頸部悪性腫瘍罹患率は全国平均より多く、進行癌が多くなっています。進行癌では病巣切除とともに遊離組織移植を用いた機能再建手術が必要になります。しかし進行癌であっても、超選択的動注化学療法と放射線治療を組み合わせることにより、手術と同等以上の治療効果と臓器温存を得ることもできるようになってきました（図2）。

この他にも、前鼻孔から腫瘍を頭蓋底とともに合併切除・再建する鼻内視鏡手術、各種の原因で嚙声になったときに、喉頭枠組み手術、反回神経再建術をおこない音声回復する治療など先進的な治療に取り組んでいます。

3. まとめ

島嶼環境による地域完結型高度医療のニーズに応えるためには、豊富な経験を持つ医師の育成が必要です。このために、全国、海外の専門施設での研修を推奨しています。さらに自ら研究をおこなうことにより臨床能力が自然と涵養されるようになってゆきます。頭頸部癌、再発性喉頭乳頭腫におけるヒト乳頭腫ウイルス感染の役割・癌化へのメカニズム、脳機能画像を利用した各種評価、新規難聴遺伝子の発見など国内外の学会で高く評価されています。これらの成果が患者さんのQOL向上へつなげるように、診療に取り組んでいます。

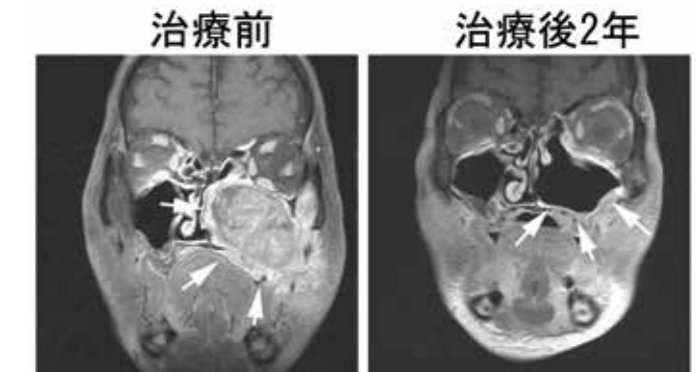


図2 超選択的動注化学療法併用放射線治療をおこなった上顎癌症例。左上顎洞に大きな腫瘍を認めるが、治療後再発はない。形態も良好である。

診療における特色③

高気圧酸素治療の変遷

高気圧酸素治療は2018年4月の診療報酬改定に伴い、全国的に大幅な変革を遂げております。これまでは救急的なもの6000点（7回まで）、普通200点（無制限）となっていました。2018年4月の診療報酬改定より一律で3000点に変更され、重傷、緊急的なもの10回、非緊急的なもの30回と制限が設けられました。その結果、昨年度は過去最高の診療報酬をあげることができております。

当院では1973年運用開始から45年経過した現在、高気圧治療部は先人たちのたゆまぬ努力により患者数の増大や依頼科の多様化に成功して参りました。当院の主な高気圧適応疾患は、1970年代は半数が減圧症となっていました。現在では第一位：突発性難聴 約30%、第二位：末梢循環障害 約20%、第三位：骨髄炎 約10%となっております。各科先生方の御紹介誠にありがとうございます。

また、当院の特徴である脳腫瘍に対する高気圧酸素治療併用放射線治療は、1998年頃より行っており徐々にその数を増やしてきております。高気圧酸素治療後、腫瘍内に酸素が豊富に取り込まれている状況下で30分以内に照射すると放射線増感効果が得られ抗腫瘍効果が向上し、さらに放射線障害を予防することで良好な治療成績をあげることが可能となっております。当院は高気圧治療部と放射線治療部が隣接しており、この治療ができる日本有数の施設と言えます。この併用療法は脳腫瘍以外の悪性腫瘍に関しても放射線科と協議し行えますので、悪性腫瘍を扱う先生方は御検討をよろしくお願いたします。

さらに高気圧酸素治療の特徴として組織の回復を早めることや感染予防の観点から、術直後の患者さんに効果的と考えます。大きな組織移植や侵襲の強い手術後などもご相談ください。また術後経過が思わしくなく、末梢循環障害のため創閉鎖しない症例や潰瘍が長く続く症例におきましても高気圧酸素治療の有効性が示されております。

高気圧酸素治療を併用し早期回復・早期退院につながれば患者さんの負担軽減につながる点や、病院経営上も非常に有利になります。特に外科系の先生方は御検討いただければ幸いです。

一方、糖尿病性下肢病変では、高気圧酸素治療により潰瘍の治癒率が高いことが報告されているが、壊疽は切断に至ることが多く、できれば早期の高気圧酸素治療が必要です。糖尿病で下肢を切断されると心筋梗塞などが多発し、生命予後が極めて不良となる報告もあります。高気圧酸素治療は切断を回避し得る治療法の一つであり、複数のRCTで有効性が報告されています。また非糖尿病性虚血性足部潰瘍に対する有効性も報告されております。糖尿病や閉塞性動脈硬化症の蔓延で下肢の難治性病変が増加しているが、ADLや生命予後を改善させる目的に高気圧酸素治療を是非活用していただきたい。内科の先生方には時に下肢病変に注目していただき足部の潰瘍を形成した段階で早期に高気圧酸素治療を活用いただくと治療効果も高く、良好なADL、さらには良好な生命予後を維持できるものと思われま。

最後に高気圧酸素治療はスポーツの分野でも期待されています。捻挫・打撲などのスポーツ外傷では、外傷を生じた部分が腫れて痛みを生じます。腫れは末梢循環を阻害するため、低酸素環境となります。高気圧酸素治療はこれを改善し、腫れや痛みを軽減することが報告されています。東京オリンピック新種目の3人制バスケットでありバスケットボール界のLegendである長谷川誠さんも体験を兼ね当院で治療したことがあります。大腿後面の肉離れであったが、高気圧酸素治療直後は肉離れの場所がピンポイントでわかるようになり、治療翌日には改善を実感され、翌々日には治癒したと話しており、これまでの肉離れの経過より早く治ったと感想を述べていました。今後スポーツ分野での高気圧酸素治療を実践していきたいと考えております。



診療における特色④

機能画像診断センター(FIMACC)について

FIMACC(Functional Imaging and Communication Center)は琉球大学医学部附属病院に隣接する機能画像診断センターです。機能画像検査とは従来のX線単純写真やCT、あるいはMRIといった“形態”画像検査とは異なり、生体内の細胞あるいは分子レベルの“機能”を画像化したり定量化したりする事ができる検査です。

当施設ではFDG-PETという検査を行っています。FDG-PETでは生体内のブドウ糖代謝活性を観察することができ、特に悪性腫瘍の診療において大きな役割を担っています。悪性腫瘍は現代医療において非常に重要視されており、治療前の病期診断、治療中の治療効果判定、治療後の再発診断といった診療の段階で様々な検査が実施されますが、各段階においてFDG-PETは重要な情報を提供することができます。全ての悪性腫瘍に対応出来る万能な検査ではありませんが、頻度の高いほとんどの悪性腫瘍に対して有用であり、また副作用も非常に少なく侵襲性の低い検査となっております。その他にも、比較的若年者の心不全や不整脈の原因として近年重要視されている心サルコイドーシスのFDG-PET検査も行っており、悪性腫瘍だけではなく循環器領域においても重要な役割を担っています。

県内では当施設以外でも他に2ヶ所の施設でPET検査を行っていますが、当施設は後発であるにも関わらず順調に検査件数を伸ばしており、平成30年度の総検査件数は2,773件に達しています。1日あたりの件数は1台のPET装置で行うこと出来る検査件数の限界である12-13件に迫っており、2台目のPET装置導入も視野に入れ業務に励んでいます。

当施設の特徴の一つとして近隣病院からの紹介検査件数が多いことが挙げられ、院内と院外の検査比率は2:1となっております。専門医による速やかなレポート作成、院外紹介検査においては速やかなレポートおよび画像データ送付を心がけており、依頼いただいた主治医や患者様の診療に役立てていただけるよう尽力しています。

また附属病院とは異なり、保険外診療として“PETがん検診”を行なっていることも特徴の一つです。やはり全ての悪性腫瘍を発見できる訳ではありませんが、通常のがん検診では発見出来ない病変を指摘出来る場合もあり、有用性が期待されています。検診中は専用スタッフによるコンシェルジュサービスを行っており、きめ細やかな対応も好評いただいております。インターネット上でウェブサイトも公開しておりますので、ご興味のある方は“FIMACC 検診”にて検索していただければ幸いです。

琉球大学医学部附属病院 機能画像診断センターがPETがん検診をはじめました

PET 検診

琉球大学のPETがん検診は最先端のPET診断装置で全身を見ることができます。

PET検査でがんを見つけるには？

ブドウ糖に類似した薬剤 (FDG) を投与します

約1時間後に撮影をします

甲状腺癌の一例です。



社会貢献

医学部における国際人材育成の取り組み 高大接続事業 —リケジョ、琉大カガク院、医学部体験授業—

琉球大学では、琉大はかせ塾(ジュニアドクター育成プログラム)、サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ(通称リケジョ、女子中高生理系進路選択支援プログラム)、琉大カガク院(グローバルサイエンスキャンパスプログラム)の3事業が科学技術振興機構(JST)の支援を受けています。これらの事業では、これからの科学技術イノベーション立国を支える卓越した人材の発掘と育成を目指し、科学分野に卓越した意欲や能力を持つ中学生・高校生を対象とした国際的な活動を含む高度で体系的な科学教育プログラムが実施されています。3つの事業が同時に進行しているのは本学のみで、理系学部を挙げて行われています。医学部は、リケジョ、琉大カガク院に深く関与しています。リケジョでは、県内の女子中学生を対象に、講演会(出前講義を含む)、研究室での1日研究体験などが行われています。文字通り、将来、理系の職業に就く女子学生(リケジョ)が増えることが目標です。

琉大カガク院は、県内高校生を対象とした長期間(2年)にわたる2段階プログラムです。第1段階では、自然科学や研究倫理に関する基礎講義に加えて、医学を含めた科学の最新トピックに関する専門講義・実習が提供されています。選ばれた学生は第2段階に進み(医学部配属は2名)、放課後や休日を利用して配属先の研究室で各

自のテーマで研究を行い、国内外での学会、学術論文での発表を目指します。また、平成30年度は、先端的な研究を推進している国内研究施設(国立科学博物館、JAXAなど)の見学と成果発表を兼ねた討論会が実施され、海外の大学(ハワイ大学など)でのシンポジウムにも参加しました。早期の人材発掘と育成を行い、将来、プログラム受講者から国際的に活躍する科学者が多く輩出されることを目標としています。

医学部医学科独自の取り組みとして、平成30年8月には、1週間の医学部体験授業を実施しました。離島の高校を含む県内14校の高校生23名が参加し、模擬授業、シミュレーション実習、研究室での医学研究を体験しました。最終日には、すべての学生が研究成果を発表し、所属高校の先生、父兄、指導した教員などとの間で活発な討論が行われ、大いに盛り上がりました。この事業を通じて、琉球大学医学部の魅力を感じてもらおうと共に、体験をそれぞれの高等学校に持ち帰ってもらい、将来の職業選択に生かしほしいと願っています。そして、医師・医学系研究者を志す強い意志を持った学生が増えることが目標です。その後、琉球大学・沖縄県高等学校長協会連絡協議会の場でも高く評価され、次年度以降も継続予定です。

琉球大学医学部では、このような取り組みを継続し、沖縄健康医療拠点形成の柱の1つである国際人材の育成を推進します。



国際交流

琉球大学医学部は、我が国唯一の亜熱帯気候で東アジアの中心に位置する沖縄県に立地する個性豊かな学部です。また、世界的な趨勢である国際水準を満たした医学教育プログラムの導入にいち早く取り組み、平成29年に国際認証を受けました。そのような特色を最大限に活かすべく、本学部では医学科、保健学科共に研究、教育、社会貢献の面で様々な国際交流が進められています。

はじめに、大学間または部局間の国際交流の一環として、大学間交流協定や医学部部局間交流協定を基盤にした活動では、平成28年度より開始された医学部医学科3年生を対象とした医科学研究プログラムにおいて、米国コロラド大学医学部、カリフォルニア大学サンディエゴ校、ハーバード大学医学部、バルセロナ大学医学部、シンガポールがん研究所等に学生を受け入れてもらい、約2カ月半の研究実習を行っています(写真1:コロラド大学皮膚科学講座藤田研究室)。臨床実習でもハワイ大学医学部クワキニ病院、タマサート大学医学部、台北医科大学、ミシガン州立大学、シンガポール南洋理工大学のLKC医学部との間で年に1-2名の学生の相互訪問・研修が実施されており、国際水準を満たしグローバルな感覚を持つ医師の育成に注力しています。一方、保健学科では部局間交流協定の下、学生の短期交換留学を活発に行っております。



写真1:コロラド大学皮膚科学講座藤田研究室



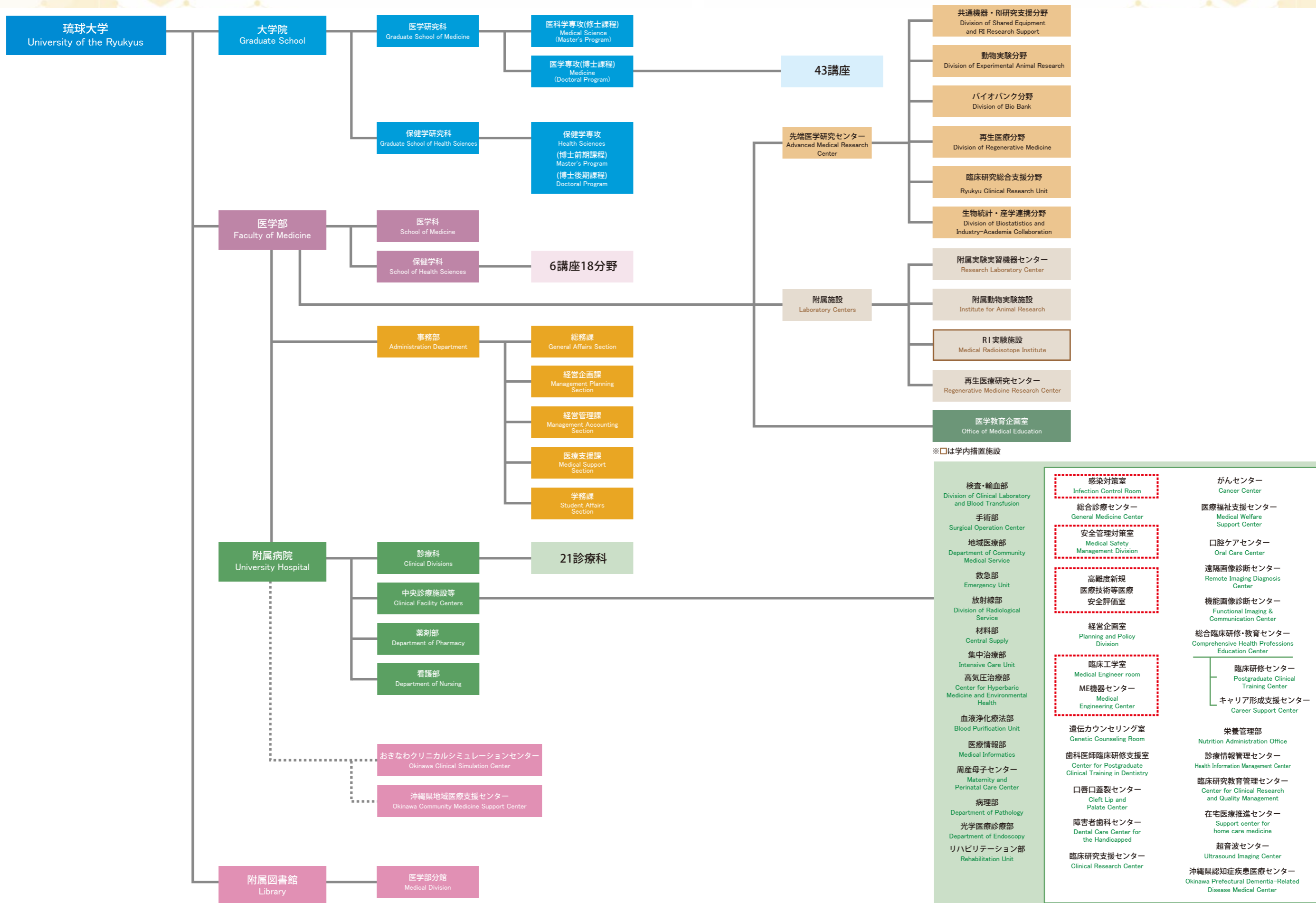
写真2:ガーナやコートジボアールへの訪問活動

学術面においては、国際的な共同研究が実施されており、教員や学生の相互訪問等、教育の面での活用も年々活発化しております。また、個々の研究者の活動を基盤とし、日本学術振興会科学研究費助成事業(科研費)や日本医療研究開発機構(AMED)の研究費等を活用して、海外のフィールドまたは大学を含む研究機関との共同研究も年々活気を帯びております。写真2は、皮膚科学講座が、AMEDプロジェクト「西アフリカにおけるブルリ潰瘍とその他の皮膚NTDs対策のための統合的介入」の研究の一部でガーナやコートジボアールを訪問活動した時のものです。また、国際交流の一環として国際学会の主催も行っています。一例として平成28年より、東京理科大学、台北医学大学と共同で医療現場の問題を理・工・薬学他、心理学・デザイン学の研究者が異分野(文化)連携することにより解決を目指す「バイオメディカル・インタフェース・シンポジウム」を毎年共催しています(写真3:台湾国立交通大学にて育成医学講座:中西教授)。

社会貢献として、医学部附属病院の口唇口蓋裂センターでは、ラオスとエチオピアにおいて、貧困のために治療を受けられない口唇口蓋裂患者に対して無償手術と同時に、現地の医療スタッフに対する医療技術移転を行ってきております。このように琉球大学医学部の国際交流は活発に展開されております。



写真3:台湾国立交通大学で育成医学講座を行う中西教授



※□は学内措置施設

※[]部については病院長の指揮下の組織
※□は院内措置施設

大学院医学研究科 Graduate School of Medicine

医学研究科長(併) Dean
教授 石田 肇
 Professor Hajime Ishida

医学専攻 (博士課程) Medicine (Doctoral Program)

システム生理学講座 Systems Physiology

教授 宮里 実
 Professor Minoru Miyazato
准教授 細川 浩
 Assoc.Prof. Yutaka Hosokawa

放射線診断治療学講座 Radiology

教授 村山 貞之
 Professor Sadayuki Murayama
准教授 石神 康生
 Assoc.Prof. Kousei Ishigami

脳神経外科学講座 Neurosurgery

教授 石内 勝吾
 Professor Shogo Ishiuchi

眼科学講座 Ophthalmology

教授 古泉 英貴
 Professor Hideki Koizumi
准教授 酒井 寛
 Assoc.Prof. Hiroshi Sakai

育成医学講座 Child Health and Welfare

教授 中西 浩一
 Professor Koichi Nakanishi
准教授 知念 安紹
 Assoc.Prof. Yasutsugu Chinen

耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery

教授 鈴木 幹男
 Professor Mikio Suzuki
准教授 真栄田 裕行
 Assoc.Prof. Hiroyuki Maeda

精神病態医学講座 Neuropsychiatry

教授 近藤 毅
 Professor Tsuyoshi Kondo
准教授 三原 一雄
 Assoc.Prof. Kazuo Mihara

再生医学講座 Regenerative Medicine

教授 野口 洋文
 Professor Hirofumi Noguchi

先進ゲノム検査医学講座 Advanced Genomic and Laboratory Medicine

教授 前田 士郎
 Professor Shiro Maeda
准教授 今村 美菜子
 Assoc.Prof. Minako Imamura

分子解剖学講座 Molecular Anatomy

教授 高山 千利
 Professor Chitoshi Takayama
准教授 清水 千草
 Assoc.Prof. Chigusa Shimizu

ゲノム医科学講座 Medical Genomics

准教授 小田 高也
 Assoc.Prof. Takaya Oda

人体解剖学講座 Human Biology and Anatomy

教授 石田 肇
 Professor Hajime Ishida
准教授 木村 亮介
 Assoc.Prof. Ryoj Kimura

分子・細胞生理学講座 Molecular and Cellular Physiology

教授 松下 正之
 Professor Masayuki Matsushita
准教授 中村 真理子
 Assoc.Prof. Mariko Nakamura

薬理学講座 Pharmacology

教授 筒井 正人
 Professor Masato Tsutsui

胸部心臓血管外科学講座 Thoracic and Cardiovascular Surgery

教授 國吉 幸男
 Professor Yukio Kuniyoshi
准教授 山城 聡
 Assoc.Prof. Satoshi Yamashiro

麻酔科学講座 Anesthesiology

教授 垣花 学
 Professor Manabu Kakinohana
准教授 中村 清哉
 Assoc.Prof. Seiya Nakamura

整形外科科学講座 Orthopedic Surgery

准教授 當銘 保則
 Assoc.Prof. Yasunori Tome

形成外科学講座 Plastic and Reconstructive Surgery

教授 清水 雄介
 Professor Yusuke Shimizu

泌尿器外科学講座 Urology

教授 齋藤 誠一
 Professor Seiichi Saito

顎顔面口腔機能再建学講座 Oral and Maxillofacial Functional Rehabilitation

准教授 西原 一秀
 Assoc.Prof. Kazuhide Nishihara

救急医学講座 Emergency and Critical Care Medicine

教授 久木田 一郎
 Professor Ichiro Kukita
准教授 福田 龍将
 Assoc.Prof. Tatsuma Fukuda

臨床薬理学講座 Clinical Pharmacology and Therapeutics

教授 植田 真一郎
 Professor Shin-ichiro Ueda
准教授 三輪 宜一
 Assoc.Prof. Yoshikazu Miwa

薬物治療学講座(協力) Pharmacotherapy

教授 中村 克徳
 Professor Katsunori Nakamura

大学院医学研究科 Graduate School of Medicine

医化学講座 Medical Biochemistry

教授 苅谷 研一
Professor Ken-ichi Kariya

准教授 海川 正人
Assoc.Prof. Masato Umikawa

生化学講座 Biochemistry

教授 山本 秀幸
Professor Hideyuki Yamamoto

准教授 仲嶺 三代美
Assoc.Prof. Sayomi Nakamine

腫瘍病理学講座 Pathology and Oncology

教授 吉見 直己
Professor Naoki Yoshimi

准教授 富田 真理子
Assoc.Prof. Mariko Tomita

細胞病理学講座 Pathology and Cell Biology

教授 加留部 謙之輔
Professor Kennosuke Karube

衛生学・公衆衛生学講座 Public Health and Hygiene

准教授 花城 和彦
Assoc.Prof. Kazuhiko Hanashiro

法医学講座 Legal Medicine

教授 二宮 賢司
Professor Kenji Ninomiya

内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座 Internal Medicine, Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Hematology, Rheumatology

教授 益崎 裕章
Professor Hiroaki Masuzaki

准教授 森島 聡子
Assoc.Prof. Satoko Morishima

循環器・腎臓・神経内科学講座 Cardiovascular Medicine, Nephrology and Neurology

教授 大屋 祐輔
Professor Yusuke Ohya

准教授 岩淵 成志
Assoc.Prof. Masashi Iwabuchi

消化器・腫瘍外科学講座 Digestive and General Surgery

女性・生殖医学講座 Medical Science of Women and Reproduction

教授 青木 陽一
Professor Yoichi Aoki

微生物学・腫瘍学講座 Microbiology and Oncology

教授 森 直樹
Professor Naoki Mori

細菌学講座 Bacteriology

教授 山城 哲
Professor Tetsu Yamashiro

准教授 トーマ クラウディア
Assoc.Prof. Claudia Toma

寄生虫・免疫病因病態学講座 Parasitology and Immunopathology

教授 岸本 英博
Professor Hidehiro Kishimoto

准教授 當眞 弘
Assoc.Prof. Hiromu Toma

皮膚科学講座 Dermatology

教授 高橋 健造
Professor Kenzo Takahashi

免疫学講座 Immunology

教授 田中 勇悦
Professor Yuetsu Tanaka

感染症・呼吸器・消化器内科学講座 Infectious, Respiratory and Digestive Medicine

教授 藤田 次郎
Professor Jiro Fujita

准教授 健山 正男
Assoc.Prof. Masao Tateyama

生体防御学講座(協力) Host Defense

教授 松崎 吾朗
Professor Goro Matsuzaki

准教授 梅村 正幸
Assoc.Prof. Masayuki Umemura

准教授 高江洲 義一
Assoc.Prof. Giichi Takaesu

感染免疫制御学講座(協力) Vaccinology and Vaccine Immunology

教授 新川 武
Professor Takeshi Arakawa

ウイルス学講座 Virology

教授 大野 真治
Professor Shinji Ohno

臨床研究教育管理学講座 Clinical Research and Quality Management

教授(併) 植田 真一郎
Professor Shin-ichiro Ueda

医科学専攻(修士課程) Medical Sciences (Master's Program)

大学院保健学研究科 Graduate School of Health Sciences

保健学専攻(博士前期課程、博士後期課程) Health Sciences (Master's and Doctoral Program)

保健学研究科長(併) Dean
教授 福島 卓也
Professor Takuya Fukushima

人間健康開発学領域 Human Health Promotion

国際島嶼保健学領域 International & Islands Health Sciences

医学部 Faculty of Medicine

医学部長(併) Dean
教授 石田 肇
Professor Hajime Ishida

副学部長(併) Vice-Dean
教授 岸本 英博
Professor Hidehiro Kishimoto

副学部長(併) Vice-Dean
教授 山城 哲
Professor Tetsu Yamashiro

副学部長(併) Vice-Dean
教授 高橋 健造
Professor Kenzo Takahashi

副学部長(併) Vice-Dean
教授 豊里 竹彦
Professor Takehiko Toyosato

医学科 School of Medicine

医学科長(併) Head
教授 筒井 正人
Professor Masato Tsutsui

保健学科 School of Health Sciences

保健学科長(併) Head
教授 福島 卓也
Professor Takuya Fukushima

基礎看護学講座 Department of Fundamental Nursing

基礎看護学分野
Fundamental Nursing
教授 豊里 竹彦
Professor Takehiko Toyosato

疫学・健康教育学分野
Epidemiology and Health Promotion
教授 高倉 実
Professor Minoru Takakura

生物統計学分野
Biostatistics
教授 米本 孝二
Professor Koji Yonemoto

成人・老年看護学講座 Department of Adult and Gerontological Nursing

成人・がん看護学分野
Adult Health and Cancer Nursing
教授 照屋 典子
Professor Noriko Teruya
准教授 大湾 知子
Assoc.Prof. Tomoko Owan

在宅・慢性期看護学分野
Home Care and Chronic Care Nursing

老年看護学分野
Gerontological Nursing
教授 國吉 緑
Professor Midori Kuniyoshi

母子看護学講座 Department of Maternal and Child Nursing

母性看護・助産学分野
Maternal Nursing and Midwifery
教授 大嶺 ふじ子
Professor Fujiko Omine
准教授 遠藤 由美子
Assoc.Prof. Yumiko Endoh
准教授(学内) 玉城 陽子
Assoc.Prof. Yoko Tamashiro

小児看護学分野
Child Health Nursing

国際地域保健学分野
Global Health
教授 小林 潤
Professor Jun Kobayashi
准教授 野中 大輔
Assoc.Prof. Daisuke Nonaka

地域看護学講座 Department of Community Health Nursing

地域看護学分野
Community Health Nursing

精神看護学分野
Mental Health Nursing
教授 與古田 孝夫
Professor Takao Yokota

臨床心理・学校保健学分野
Clinical Psychology and School Health

生体検査学講座 Department of Basic Laboratory Sciences

生体代謝学分野
Biometabolic Chemistry
教授 原嶋 奈々江
Professor Nanae Harashima

分子遺伝学分野
Molecular Genetics
教授 中尾 浩史
Professor Hiroshi Nakao

形態病理学分野
Morphological Pathology
教授 金城 貴夫
Professor Takao Kinjo

病態検査学講座 Department of Clinical Laboratory Sciences

病原体検査学分野
Microbiology
教授 平井 到
Professor Itaru Hirai

生理機能検査学分野
Clinical Physiology
教授 粟田 久多佳
Professor Hisataka Awata

血液免疫検査学分野
Hematology
教授 福島 卓也
Professor Takuya Fukushima

先端医学研究センター Advanced Medical Research Center

共通機器・RI研究支援分野
Division of Shared Equipment and RI Research Support
分野長(併) 教授 筒井 正人
Director of the Division Professor Masato Tsutsui
准教授 江口 幸典
Assoc.Prof. Yukinori Eguchi

動物実験分野
Division of Experimental Animal Research
分野長(併) 教授 高山 千利
Director of the Division Professor Chitoshi Takayama
准教授 市瀬 広武
Assoc.Prof. Hirotake Ichise

バイオバンク分野
Division of Bio Bank
分野長(併) 教授 前田 士郎
Director of the Division Professor Shiro Maeda

再生医療分野
Division of Regenerative Medicine
分野長(併) 教授 野口 洋文
Director of the Division Professor Hirofumi Noguchi

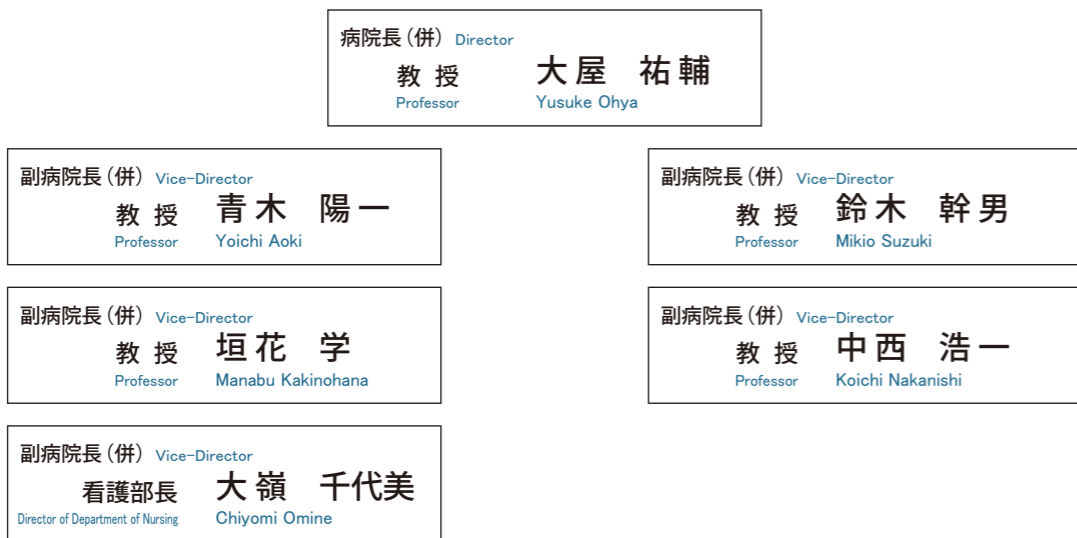
臨床研究総合支援分野
Ryukyuu Clinical Research Unit
分野長(併) 教授 植田 真一郎
Director of the Division Professor Shin-ichiro Ueda

生物統計・産学連携分野
Division of Biostatistics and Industry-Academia Collaboration
分野長(併) 教授 米本 孝二
Director of the Division Professor Koji Yonemoto

医学教育企画室 Office of Medical Education

室長(併)・教授 山本 秀幸
Professor Hideyuki Yamamoto
准教授 屋良 さとみ
Assoc.Prof. Satomi Yara

附属病院 University Hospital



診療科 Clinical Divisions

第一内科長(併) 教授 藤田 次郎 Professor Jiro Fujita	Internal Medicine (I)	皮膚科長(併) 教授 高橋 健造 Professor Kenzo Takahashi	Dermatology
第二内科長(併) 教授 益崎 裕章 Professor Hiroaki Masuzaki	Internal Medicine (II)	腎泌尿器外科長(併) 教授 齋藤 誠一 Professor Seiichi Saito	Urology
第三内科長(代行) 准教授 岩淵 成志 Assoc.Prof. Masashi Iwabuchi	Internal Medicine (III)	耳鼻咽喉科長(併) 教授 鈴木 幹男 Professor Mikio Suzuki	Otorhinolaryngology
第一外科長(代行) 教授 國吉 幸男 Professor Yukio Kuniyoshi	Surgery (I)	眼科長(併) 教授 古泉 英貴 Professor Hideki Koizumi	Ophthalmology
第二外科長(併) 教授 國吉 幸男 Professor Yukio Kuniyoshi	Surgery (II)	精神科神経科長(併) 教授 近藤 毅 Professor Tsuyoshi Kondo	Neuropsychiatry
脳神経外科長(併) 教授 石内 勝吾 Professor Shogo Ishiuchi	Neurosurgery	放射線科長(併) 教授 村山 貞之 Professor Sadayuki Murayama	Radiology
整形外科長(代行) 准教授 當銘 保則 Assoc.Prof. Yasunori Toume	Orthopedic Surgery	麻酔科長(併) 教授 垣花 学 Professor Manabu Kakinohana	Anesthesiology
形成外科長(併) 教授 清水 雄介 Professor Yusuke Shimizu	Plastic and Reconstructive Surgery	歯科口腔外科長(代行) 准教授 西原 一秀 Assoc.Prof. Kazuhide Nishihara	Oral and Maxillofacial Surgery
産科婦人科長(併) 教授 青木 陽一 Professor Yoichi Aoki	Obstetrics/Gynecology	病理診断科長(併) 教授 加留部 謙之輔 Professor Kennosuke Karube	Diagnostic Pathology
小児科長(併) 教授 中西 浩一 Professor Koichi Nakanishi	Pediatrics	救急科長(併) 教授 久木田 一朗 Professor Ichiro Kukita	Emergency and Critical Care
		リハビリテーション科長(代行) 教授 大屋 祐輔 Professor Yusuke Ohya	Rehabilitation Medicine

中央診療施設等 Clinical Facility Centers

検査・輸血部長(併) 教授 前田 士郎 Professor Shiro Maeda	Division of Clinical Laboratory and Blood Transfusion	経営企画室長(併) 教授 青木 陽一 Professor Yoichi Aoki	Planning and Policy Division
手術部長(併) 教授 鈴木 幹男 Professor Mikio Suzuki	Surgical Operation Center	臨床工学室長(併) 教授 青木 陽一 Professor Yoichi Aoki	Medical Engineer room
地域医療部長(併) 教授 久木田 一朗 Professor Ichiro Kukita	Department of Community Medical Service	ME機器センター長(併) 教授 久木田 一朗 Professor Ichiro Kukita	Medical Engineering Center
救急部長(併) 教授 久木田 一朗 Professor Ichiro Kukita	Emergency Unit	遺伝カウンセリング室長(併) 教授 中西 浩一 Professor Koichi Nakanishi	Genetic Counseling Room
放射線部長(併) 教授 村山 貞之 Professor Sadayuki Murayama	Division of Radiological Service	歯科医師臨床研修支援室長 Center for Postgraduate Clinical Training in Dentistry	Center for Postgraduate Clinical Training in Dentistry
材料部長(併) 教授 齋藤 誠一 Professor Seiichi Saito	Central Supply	口唇口蓋裂センター長 Cleft Lip and Palate Center	Cleft Lip and Palate Center
集中治療部長(併) 教授 垣花 学 Professor Manabu Kakinohana	Intensive Care Unit	障害者歯科センター長(併) 教授 大屋 祐輔 Professor Yusuke Ohya	Dental Care Center for the Handicapped
高気圧治療部長(併) 教授 久木田 一朗 Professor Ichiro Kukita	Center for Hyperbaric Medicine and Environmental Health	臨床研究支援センター長(併) 教授 植田 真一郎 Professor Shin-ichiro Ueda	Clinical Research Center
血液浄化療法部長 准教授 古波蔵 健太郎 Assoc.Prof. Kentaro Kohagura	Blood Purification Unit	がんセンター長 診療教授 増田 昌人 Clinical Professor Masato Masuda	Cancer Center
医療情報部長(併) 特命教授 平田 哲生 Specially Appointed Professor Tetsuo Hirata	Medical Informatics	医療福祉支援センター長(併) 特命教授 平田 哲生 Specially Appointed Professor Tetsuo Hirata	Medical Welfare Support Center
周産母子センター部長 診療教授 正本 仁 Clinical Professor Hitoshi Masamoto	Maternity and Perinatal Care Center	口腔ケアセンター長 Oral Care Center	Oral Care Center
病理部長(併) 教授 吉見 直己 Professor Naoki Yoshimi	Department of Pathology	遠隔画像診断センター長(併) 教授 村山 貞之 Professor Sadayuki Murayama	Remote Imaging Diagnosis Center
光学医療診療部長 診療教授 外間 昭 Clinical Professor Akira Hokama	Department of Endoscopy	機能画像診断センター長(併) 教授 村山 貞之 Professor Sadayuki Murayama	Functional Imaging & Communication Center
リハビリテーション部長(併) 教授 大屋 祐輔 Professor Yusuke Ohya	Rehabilitation Unit	総合臨床研修・教育センター長(併) 教授 大屋 祐輔 Professor Yusuke Ohya	Comprehensive Health Professions Education Center
感染対策室長(併) 教授 藤田 次郎 Professor Jiro Fujita	Infection Control Room	栄養管理部長(併) 教授 益崎 裕章 Professor Hiroaki Masuzaki	Nutrition Administration Office
総合診療センター部長(併) 教授 益崎 裕章 Professor Hiroaki Masuzaki	General Medicine Center	診療情報管理センター長(併) 特命教授 平田 哲生 Specially Appointed Professor Tetsuo Hirata	Health Information Management Center
安全管理対策室長(併) 教授 鈴木 幹男 Professor Mikio Suzuki	Medical Safety Management Division	臨床研究教育管理センター長(併) 教授 植田 真一郎 Professor Shin-ichiro Ueda	Center for Clinical Research and Quality Management
高難度新規医療技術等 医療安全評価室長(併) 教授 鈴木 幹男 Professor Mikio Suzuki		在宅医療推進センター長(併) 教授 久木田 一朗 Professor Ichiro Kukita	Support Center for Home Care Medicine
		超音波センター長(併) 教授 國吉 幸男 Professor Yukio Kuniyoshi	Ultrasound Imaging Center
		沖縄県認知症疾患医療センター長(併) 教授 近藤 毅 Professor Tsuyoshi Kondo	Okinawa Prefectural Dementia-Related Disease Medical Center

附属病院 University Hospital

薬剤部 Department of Pharmacy	
部長・教授 Director, Professor	中村 克徳 Katsunori Nakamura
看護部 Department of Nursing	
部長 Director	大嶺 千代美 Chiyoumi Omine
おきなわクリニカルシミュレーションセンター Okinawa Clinical Simulation Center	
センター長(併)・教授 Professor	大屋 祐輔 Yusuke Ohya
沖縄県地域医療支援センター Okinawa Community Medicine Support Center	
センター長(併)・教授 Professor	大屋 祐輔 Yusuke Ohya

附属図書館 Library

附属図書館医学部分館 Library, Medical Division	
医学部分館長(併)・教授 Director, Professor	平井 到 Itaru Hirai

医学部事務部 Administration Division of Faculty of Medicine

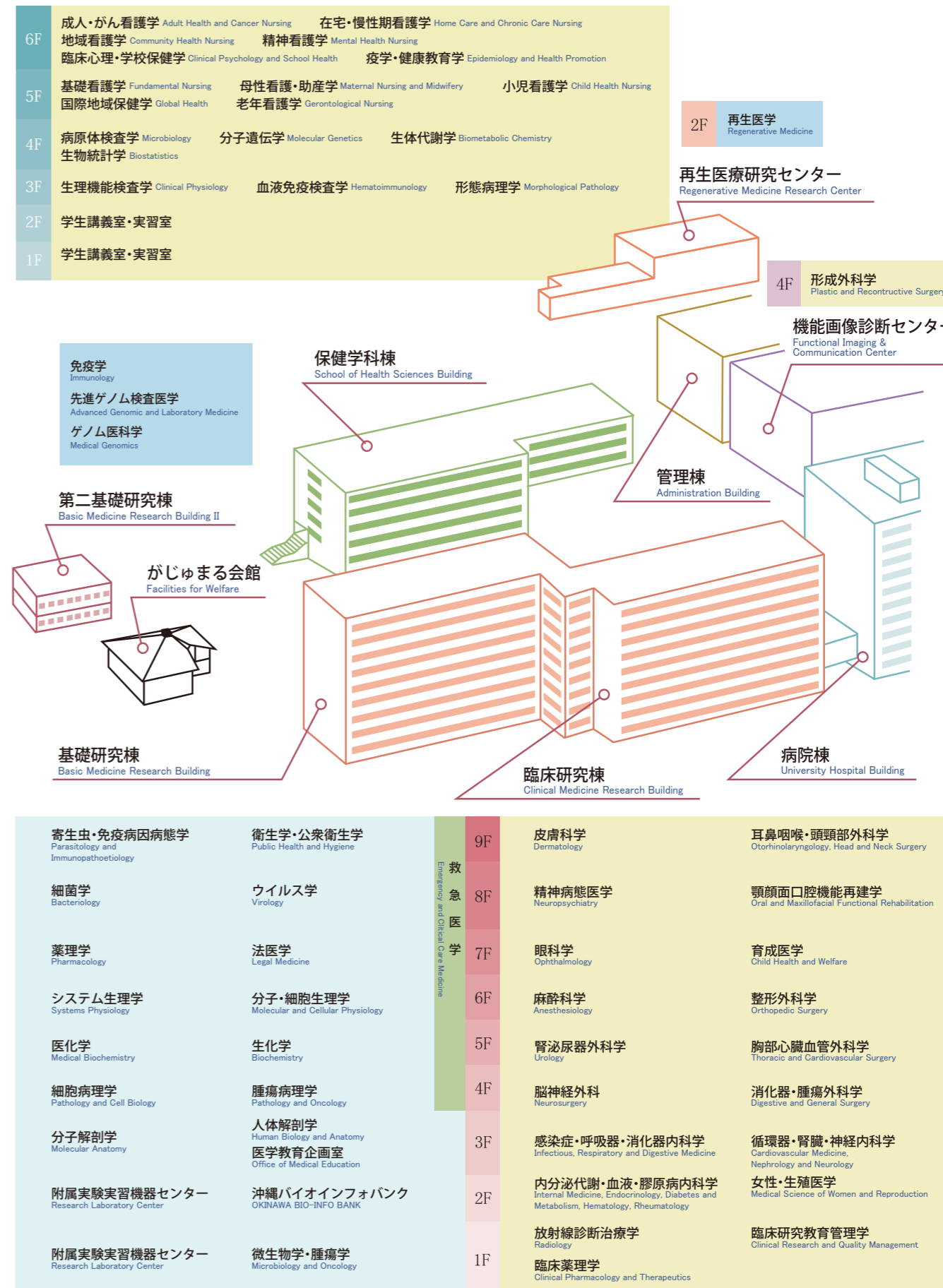
事務部長 Director	鬼村 博幸 Hiroyuki Onimura
事務部次長 Deputy Director	鉢嶺 元安 Motoyasu Hachimine
総務課長 Head for General Affairs Section	金城 不二子 Fujiko Kinjo
経営企画課長(併) Head for Management Planning Section	鉢嶺 元安 Motoyasu Hachimine
経営管理課長 Head for Management Accounting Section	照屋 智 Satoshi Teruya
医療支援課長 Head for Medical Support Section	高橋 圭郎 Keiyou Takahashi
学務課長 Head for Student Affairs Section	野原 茂 Shigeru Nohara

職員数 Number of Staff Member

令和元年5月1日現在
(as of May 1, 2019)

職種区分 Classification	医学部 Faculty of Medicine		医学研究科 Graduate School of Medicine		附属病院 University Hospital		
	常勤 Permanent Staff	非常勤 Non-Permanent Staff	常勤 Permanent Staff	非常勤 Non-Permanent Staff	常勤 Permanent Staff	非常勤 Non-Permanent Staff	
教員 Academic	教授 Professors	13[1]	0	34	0	4[2]	0
	准教授 Associate Professors	6	0	25	0	13[8]	0
	講師 Lecturers	5	0	0	0	33[6]	0
	助教 Assistant Professors	15[3]	0	68[3]	1[1]	70[11]	0
医員 Medical Staffs	0	0	0	0	0	207	
専門指導医 Medical Directors	0	0	0	0	0	12	
研修医 Residents	0	0	0	0	0	30	
ポスドク研究員 Postdoctoral Fellows	0	0	0	2	0	1	
産学官連携研究員 Research Fellows	0	0	0	0	0	0	
特命研究員 Specially Appointed Fellows	0	0	2[2]	0	0	0	
事務系職員 Administrative Staffs	102	99	2[2]	0	12[5]	81	
技能職員 Technical Staffs	33	68	0	0	14[3]	49	
医療系職員 Paramedical	0	0	0	0	179[3]	16	
看護師 Nurses	0	0	0	0	654	28	
看護助手 Nurses Aides	0	0	0	0	0	65	
教務職員 Research Associates	2	2	0	0	0	0	
合計 Total	176 [4]	169	131 [7]	3 [1]	979 [38]	489	

注 [] は特命職員又は寄附講座教員で内数
注 長期休暇者(育児休業者など)を除く



1.医学部学生の定員及び現員 Quota and Present Number of Medical Students

令和元年5月1日現在 (as of May1,2019)

学科 School	入学定員 Enrollment Quota 内数5名 2年次編入	収容定員 Total Number	現員 Present Number of Medical Students													
			1年 First		2年 Second		3年 Third		4年 Fourth		5年 Fifth		6年 Sixth		合計 Total	
			男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female
医学科 School of Medicine	117 (5)	692	67	58	70	44	78	55	70	43	80	44	71	39	436	283
			125		114		133		113		124		110		719	
保健学科 School of Health Sciences	60	240	15	46	19	42	20	40	23	40					77	168
			61		61		60		63						245	

2.医学部入学志願者数及び入学者数 Number of Applicants and Enrollment

令和元年度

学科 School	入学定員 Enrollment Quota	入学志願者数 Quota Applicants			入学者数 Enrollment Permitted		
		男 Male	女 Female	合計 Total	男 Male	女 Female	合計 Total
医学科 School of Medicine	112	543	339	882	59	53	112
保健学科 School of Health Sciences	60	56	154	210	15	45	60

3.医学部学生の都道府県別入学状況 Regional Distribution of Enrollment

令和元年度

学科 School	沖縄 Okinawa	北海道 Hokkaido	千葉 Chiba	東京 Tokyo	神奈川 Kanagawa	愛知 Aichi	大阪 Osaka	兵庫 Hyogo	広島 Hiroshima	福岡 Fukuoka	その他 Others	合計 Total
医学科 School of Medicine	73 (36)	2 (1)	2 (0)	5 (3)	4 (2)	10 (4)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	3 (1)	7 (3)	112 (53)
学科 School	沖縄 Okinawa	北海道 Hokkaido	新潟 Niigata	神奈川 Kanagawa	埼玉 Saitama	岡山 Okayama	愛媛 Ehime	香川 Kagawa	鹿児島 Kagoshima	その他 Others	合計 Total	
保健学科 School of Health Sciences	52 (38)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	60 (45)	

注()は女子で内数 Note:The number of female students is indicated in parentheses.

4.大学院学生の定員及び現員 Quota and Present Number of Graduate School Students

令和元年5月1日現在 (as of May1,2019)

研究科 Graduate School	入学定員 Enrollment Quota	収容定員 Total Number	現員 Present Number of Graduate School Students											
			1年 First		2年 Second		3年 Third		4年 Fourth		合計 Total			
			男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female		
医学研究科 Graduate School of Medicine	修士 Master's Course	15	30	9	6	2	8					11	14	
	博士 Doctoral Course	30	120	23	13	17	19	21	13	66	22	127	67	
				36		36		34		88		194		
保健学研究科 Graduate School of Health Sciences	博士前期 Master's Course	10	20	4	6	5	7					9	13	
	博士後期 Doctoral Course	3	9	2	0	1	5	5	9			8	14	
				2		6		14				22		

5.大学院入学志願者数及び入学者数 Number of Graduate School Applicants and Enrollment

令和元年度

研究科 Graduate School	入学定員 Enrollment Quota	入学志願者数 Quota Applicants			入学者数 Enrollment Permitted			
		男 Male	女 Female	合計 Total	男 Male	女 Female	合計 Total	
医学研究科 Graduate School of Medicine	修士 Master's Course	15	9	6	15	9	6	15
	博士 Doctoral Course	30	23	13	36	23	12	35
保健学研究科 Graduate School of Health Sciences	博士前期 Master's Course	10	4	6	10	4	5	9
	博士後期 Doctoral Course	3	1	2	3	1	0	1

6.外国人留学生状況 Number of International Students

令和元年5月1日現在 (as of May1,2019)

研究科 Graduate School	1年 First		2年 Second		3年 Third		4年 Fourth		5年 Fifth		6年 Sixth		合計 Total	
	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female
医学研究科 Graduate School of Medicine	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保健学研究科 Graduate School of Health Sciences	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0
医学研究科 Graduate School of Medicine	修士 Master's Course	0	0	0	0								0	0
	博士 Doctoral Course	1(1)	0	0	0	0	1	0	0				1(1)	1
		1(1)	0	0	0	1	0	0					2(1)	
保健学研究科 Graduate School of Health Sciences	博士前期 Master's Course	0	1	1(1)	0								1(1)	1
	博士後期 Doctoral Course	1		1(1)									2(1)	
		1(1)	0	0	2(2)	1	1(1)						2(1)	3(3)
		1(1)		2(2)	2(1)								5(4)	

注()は国費留学生で内数 Note:The number of Japanese Government Scholarship Students is indicated in parentheses.

医学研究科 Graduate School of Medicine

修士課程 Master's Program	医科学専攻 Medical Science	入学定員 Enrollment Quota	15人
博士課程 Doctoral Program	医学専攻 Medicine	入学定員 Enrollment Quota	30人

保健学研究科 Graduate School of Health Sciences

博士前期課程 Master's Program	保健学専攻 Health Sciences (人間健康開発学領域、国際島嶼保健学領域) (Human Health Promotion, International & Island Health Sciences)	入学定員 Enrollment Quota	10人
博士後期課程 Doctoral Program	保健学専攻 Health Sciences (人間健康開発学領域、国際島嶼保健学領域) (Human Health Promotion, International & Island Health Sciences)	入学定員 Enrollment Quota	3人

10 解剖体

Autopsies for Gross Anatomy

区分 Classification	収集数 Number of Cadavers Gathered	解剖数 Number of Autopsies	実習時間 Practical Period	備考
平成21年度 (2009)	33	10 2 27	21. 6. 14 ~ 21. 7. 11 21. 6. 27 ~ 21. 7. 24 21. 10. 5 ~ 22. 2. 12	基礎研究解剖学実習 学士入学解剖学 I 解剖学 I
平成22年度 (2010)	41	10 28	22. 6. 14 ~ 22. 8. 31 22. 10. 6 ~ 23. 3. 30	基礎研究解剖学実習 解剖学 I
平成23年度 (2011)	34	10 29	23. 6. 13 ~ 23. 7. 9 23. 9. 28 ~ 24. 2. 4	基礎研究解剖学実習 解剖学 I
平成24年度 (2012)	59	10 25	24. 6. 11 ~ 24. 9. 6 24. 9. 26 ~ 25. 2. 1	基礎研究解剖学実習 解剖学 I
平成25年度 (2013)	42	10 30	25. 6. 17 ~ 25. 7. 17 25. 9. 25 ~ 26. 2. 1	基礎研究解剖学実習 解剖学 I
平成26年度 (2014)	38	28 8 2	26. 4. 7 ~ 26. 6. 27 26. 7. 7 ~ 26. 7. 25 26. 9. 8 ~ 26. 10. 2	解剖学 I 基礎研究解剖学実習 臨床自由選択人体解剖学
平成27年度 (2015)	39	27 10 1 1	27. 4. 7 ~ 27. 7. 5 27. 7. 6 ~ 27. 7. 27 27. 7. 6 ~ 27. 7. 27 27. 9. 7 ~ 27. 9. 25	肉眼解剖学 基礎研究解剖学実習 臨床自由選択人体解剖学 臨床自由選択人体解剖学
平成28年度 (2016)	47	29 10 2 28	28. 4. 4 ~ 28. 7. 13 28. 7. 4 ~ 28. 7. 25 28. 7. 4 ~ 28. 7. 25 28. 9. 28 ~ 29. 2. 27	肉眼解剖学 基礎研究解剖学実習 臨床自由選択人体解剖学 解剖学実習
平成29年度 (2017)	58	4 3 29	29. 4. 17 ~ 29. 7. 28 29. 7. 3 ~ 29. 7. 28 29. 9. 27 ~ 29. 12. 25	解剖学実習 (M2・学士) 臨床自由選択人体解剖学 解剖学実習 (M1)
平成30年度 (2018)	36	2 6 29	30. 4. 16 ~ 30. 8. 8 30. 7. 2 ~ 30. 8. 8 30. 9. 28 ~ 31. 3. 2	解剖学実習 (M2・学士) 臨床自由選択人体解剖学 (M6) 解剖学実習 (M1)

11 病理解剖件数

Number of Pathological Autopsies

(平成30年度)

区分 Classification	男 Male	女 Female	合計 Total	剖検率 Autopsy Rate
死亡患者数 Hospital Deaths	85	73	158	7.0%
病理解剖件数 Autopsies	7	4	11	
受託解剖件数 Autopsies on Consignment	0	0	0	

12 図書・学術雑誌

Collection of Books and Journals

(医学部分館 平成31年4月1日現在) (as of April, 2019)

区分 Classification	図書 Books	学術雑誌 Journals
和書 Japanese	56,948 冊	2,272 種
洋書 Foreign	46,809 冊	1,504 種
合計 Total	103,757 冊	3,776 種

13 附属施設

Laboratory Centers

附属実験実習機器センター Research Laboratory Center

当センターは、大型の研究機器の効率的な管理・運用を目的として、昭和58年8月、医学部基礎研究棟の1階と2階に医学部附属共同利用施設として設立されました。当センターには、電子顕微鏡を備えた形態部門、生化学・分子生物学関連の機器を備えた分析部門、P3レベルの組換え生物・病原微生物の実験が可能な実験室を備えたバイオハザード部門、各種医用電子機器を備えた電子機器部門、および学内LAN・ネットワーク機器の管理などを行う情報部門があります。最近、共焦点レーザー顕微鏡、セルアナライザー、セルソーター等の細胞解析装置や、次世代DNAシーケンサー、DNAマイクロアレイ、デジタルPCR装置などのゲノム解析装置が順次導入され広く利用されています。当センターでは、今後、これらの機器を活用した研究の推進に貢献すると共に、さらなる機能強化を図って行きたいと思っております。



マイクロアレイ解析装置



画像解析装置



細胞解析分取装置



パーソナル次世代DNAシーケンサー

附属動物実験施設 Institute for Animal Research



附属動物実験施設



飼育装置

医学部附属の共同利用施設として、昭和58年10月31日に第一期、昭和62年9月30日に第二期、平成5年3月31日に第三期の各工事を経て、合計約3,000㎡の動物実験施設が竣工しました。

本施設は医学部附属施設ですが、本学唯一の動物実験施設であることから学内共同利用施設として位置付けられており、他学部の研究者及び学生にも開放されています。施設は、臨床・基礎研究棟から独立した鉄筋コンクリート3階建ての建物で、通常条件下での動物飼育・実験室のほか、感染実験動物飼育室・実験室、SPF動物飼育室・実験室、教員実験室、多目的飼育室、実習用セミナー室、洗浄滅菌室、事務室等からなっています。実験動物学の研究、教育の発展に対する貢献を目指して施設機能の充実を図っています。

再生医療研究センター Regenerative Medicine Research Center

沖縄県の再生医療中核拠点として、平成27年4月に再生医療研究センターが設置され、同年6月に開所式が行われました。当センターは、ロート製薬(株)から寄贈された2階建ての建物(延床面積812㎡)の1階部分に、沖縄県の先端医療産業開発拠点形成事業で整備された本格的な細胞培養加工施設(床面積224㎡)を有しています。この細胞培養加工施設は、合計12のユニットからなる本格的なもので、近年主流になりつつあるアイソレータ方式を採用しています。このアイソレータ内は極めて高い無菌状態となっており、GMP基準に準拠した再生医療用の細胞を調製できます。

当センターの業務は、細胞培養加工施設を維持管理・運営しつつ、安全な再生医療用の細胞を供給し、医学部附属病院や医療機関、研究機関、企業などと連携して優れた再生医療研究を実用化することです。

将来的には、当センターにて実用化された再生医療を多くの患者さんに提供し、沖縄県の健康社会の実現と再生医療の産業化推進に貢献したいと考えています。



再生医療研究センター外観



細胞調製ユニット内のアイソレータ

RI 実験施設(学内措置施設) Medical Radioisotope Institute

RI 実験施設は、昭和58年11月科学技術庁による承認を受け、3階建て延べ約1,200㎡の管理区域からなる学内共同利用施設として開設され、医学部放射線安全委員会ならびにRI 実験施設運営委員会の指導の下、施設長(併任)、施設主事(併任)、教務職員(専任)、事務補佐員(非常勤)の4名が、利用者に対する定期的な教育訓練、被ばく管理、ならびに施設の安全管理等の業務を担当しています。

当実験施設には、RI 測定用機器室に加え、生化学・分子生物学実験室、動物実験室および動物飼育室、ならびにP2

レベルの細胞培養室が設置されています。過去数十年間、RI は医学や生物学的研究の発展に輝かしい功績を残してきましたが、近年、実験系のNon-RI化が進行し、以前に比べると当実験施設の利用頻度も減少しております。しかしながら、RI 標識の特性である、化学的特性を変えずに高感度で目的物質を検出するという利点から、RI の利用は研究上欠くべからざる手段として、今後も続く予想されます。従って、より一層の設備の充実を図ることで、より先進的な研究環境の提供を目指しています。



施設外観



β線測定室

●診療科

内科(3)、外科(2)、脳神経外科、整形外科、形成外科、産科婦人科、小児科、皮膚科、腎泌尿器外科、耳鼻咽喉科、眼科、精神科神経科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、病理診断科、救急科、リハビリテーション科

●中央診療施設等

検査・輸血部、手術部、地域医療部、救急部、放射線部、材料部、集中治療部、高気圧治療部、血液浄化療法部、医療情報部、周産母子センター、病理部、光学医療診療部、リハビリテーション部、感染対策室(院内措置)、総合診療センター(院内措置)、安全管理対策室(院内措置)、高難度新規医療技術等医療安全評価室(院内措置)、経営企画室(院内措置)、臨床工学室(院内設置)、ME機器センター(院内措置)、遺伝カウンセリング室(院内措置)、歯科医師臨床研修支援室(院内措置)、口唇口蓋裂センター(院内措置)、障害者歯科センター(院内措置)、臨床研究支援センター(院内措置)

置)、がんセンター(院内措置)、医療福祉支援センター(院内措置)、口腔ケアセンター(院内措置)、遠隔画像診断センター(院内措置)、機能画像診断センター(院内措置)、総合臨床研修・教育センター(院内措置)、栄養管理部(院内措置)、診療情報管理センター(院内措置)、臨床研究教育管理センター(院内措置)、在宅医療推進センター(院内措置)、超音波センター(院内措置)、沖縄県認知症患者医療センター(院内設置)

●薬剤部

●看護部

●医学部事務部

総務課、経営企画課、経営管理課、医療支援課、学務課

大学院医学研究科 Graduate School of Medicine

医学専攻(博士課程) Medicine (Doctoral Program)

講座	教授名	主要研究概要
システム生理学 Systems Physiology	宮里 実 Minoru Miyazato, M.D., Ph.D.	神経科学、神経生理学、膜電位の光学的測定 Neuroscience, Neurophysiology, Optical Monitoring of Membrane Potential
放射線診断治療学 Radiology	村山 貞之 Sadayuki Murayama, M.D., Ph.D.	胸部画像診断学、放射線診断学、コンピュータX線画像 Chest Radiology, Diagnostic Radiology, Computed Radiography
脳神経外科学 Neurosurgery	石内 勝吾 Shogo Ishiuchi, M.D., Ph.D.	脳神経外科、脳腫瘍・頭蓋底外科、小児脳腫瘍外科 Neurosurgery, Brain Tumor・Skull Base Surgery, Pediatric Neuro-oncology
眼科学 Ophthalmology	古泉 英貴 Hideki Koizumi, M.D., Ph.D.	黄斑疾患、網膜硝子体疾患、緑内障 Macular Disease, Vitreoretinal Disease, Glaucoma
育成医学 Child Health and Welfare	中西 浩一 Koichi Nakanishi, M.D., Ph.D.	小児科学、小児腎臓病、遺伝性腎疾患 Pediatrics, Pediatric Nephrology, Hereditary Renal Disease
耳鼻咽喉・頭頸部外科学 Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery	鈴木 幹男 Mikio Suzuki, M.D., Ph.D.	側頭骨外科、人工内耳手術、頭頸部腫瘍外科、鼻副鼻腔内視鏡手術神経耳科 Temporal Bone Surgery, Cochlear Implant, Head and Neck Surgery, Endoscopic Sinus Surgery, and Neuro-otology
精神病態医学 Neuropsychiatry	近藤 毅 Tsuyoshi Kondo, M.D., Ph.D.	精神薬理学、精神生理学、予防精神医学 Psychopharmacology, Psychophysiology, Preventive Psychiatry
再生医学 Regenerative Medicine	野口 洋文 Hirofumi Noguchi, M.D., Ph.D.	再生医学、細胞治療 Regenerative Medicine, Cell Therapy
先進ゲノム検査医学 Advanced Genomic and Laboratory Medicine	前田 士郎 Shiro Maeda, M.D., Ph.D.	集団遺伝学、疾患感受性遺伝子研究 Population Genetics, Genetic Study for Common Disease Susceptibility
分子解剖学 Molecular Anatomy	高山 千利 Chitoshi Takayama, M.D., Ph.D.	神経解剖学、神経生物学、発生学、生殖生物学 Neuroanatomy, Neurobiology, Embryology, Reproductive Biology
ゲノム医科学 Medical Genomics		
人体解剖学 Human Biology and Anatomy	石田 肇 Hajime Ishida, M.D., Ph.D.	形質人類学、人類遺伝学、肉眼解剖学、発生生物学 Physical Anthropology, Human Genetics, Gross Anatomy, Developmental Biology
分子・細胞生理学 Molecular and Cellular Physiology	松下 正之 Masayuki Matsushita, M.D., Ph.D.	分子生理学・細胞生理学 Molecular and Cellular Physiology
薬理学 Pharmacology	筒井 正人 Masato Tsutsui, M.D., Ph.D.	薬理学、一酸化窒素、循環器病学、硫化水素 Pharmacology, Nitric Oxide, Cardiology, Hydrogen Sulfide
胸部心臓血管外科学 Thoracic and Cardiovascular Surgery	國吉 幸男 Yukio Kuniyoshi, M.D., Ph.D.	心臓血管外科学、呼吸器外科学、一般外科学、人工臓器 Cardiovascular Surgery, General Thoracic Surgery, General Surgery, Artificial Organ
麻酔科学 Anesthesiology	垣花 学 Manabu Kakinohana, M.D., Ph.D.	呼吸不全、脳・脊髄循環及び代謝、集中治療医学、疼痛管理学 Respiratory Failure, Cerebrospinal Circulation and Metabolism, Intensive Care Medicine, Pain Clinic

医学専攻(博士課程) Medicine (Doctoral Program)

講座	教授名	主要研究概要
整形外科学 Orthopedic Surgery		
形成外科学 Plastic and Reconstructive Surgery	清水 雄介 Yusuke Shimizu, M.D., Ph.D.	形成外科学、再建外科学、マイクロサージャリー、眼形成外科、先天異常学、幹細胞生物学 Plastic Surgery, Reconstructive Surgery, Micro Surgery, Ophthalmic Plastic Surgery, teratology, Stem cell biology
腎泌尿器外科学 Urology	齋藤 誠一 Seiichi Saito, M.D., Ph.D.	泌尿器系癌、ロボット支援手術、腹腔鏡手術、排尿機能、小児泌尿器科、腎移植、尿路結石および尿路感染症、骨盤臓器脱、糖鎖生物学、腫瘍マーカー Urologic Oncology, Robot-assisted Surgery, Laparoscopic Surgery, Urinary function, Pediatric Urology, Renal Transplantation, Urolithiasis & urinary tract infection, Pelvic Organ Prolapse, Glycobiology, Tumor marker
顎顔面口腔機能再建学 Oral and Maxillofacial Functional Rehabilitation		
救急医学 Emergency and Critical Care Medicine	久木田 一朗 Ichiro Kukita, M.D., Ph.D.	救急医学、救命救急医学、外傷学、中毒学、災害医学、遠隔医療学 Emergency Medicine, Critical Care Medicine, Traumatology, Toxicology, Disaster Medicine, Telemedicine
臨床薬理学 Clinical Pharmacology and Therapeutics (Cardiovascular)	植田 真一郎 Shin-ichiro Ueda, M.D., Ph.D.	心血管臨床薬理学、心血管内分泌代謝学、一般内科治療学、EBMと臨床試験 Cardiovascular Clinical, Pharmacology and Therapeutics, Cardiovascular Endocrinology and Meta-bolism, General Medicine, Evidence Based Medicine and Clinical Trial
薬物治療学(協力) Pharmacotherapy	中村 克徳 Katsunori Nakamura, Ph.D.	薬物代謝学、薬理遺伝学 Drug metabolism, Pharmacogenetics
医化学 Medical Biochemistry	苅谷 研一 Ken-ichi Kariya, M.D., Ph.D.	細胞内情報伝達系の分子生物学と分子遺伝学 Molecular Biology and Genetics of Intracellular Signal Transduction Systems
生化学 Biochemistry	山本 秀幸 Hideyuki Yamamoto, M.D., Ph.D.	細胞の分化と機能発現の分子機構、神経化学 Molecular Mechanisms for Cell Differentiation and Functions, Neurochemistry
腫瘍病理学 Pathology and Oncology	吉見 直己 Naoki Yoshimi, M.D., Ph.D.	分子発癌機構とがん化学予防、ラオスにおける国際共同研究、遠隔病理診断 Molecular Carcinogenesis and Chemoprevention for Cancers, Collaborative research in Laos, Telepathology
細胞病理学 Pathology and Cell Biology	加留部 謙之輔 Kennosuke Karube, M.D., Ph.D.	造血器腫瘍の臨床病理学的解析、分子遺伝学的解析 Clinico-Pathological and molecular analysis of hematopoietic tumors
衛生学・公衆衛生学 Public Health and Hygiene		
法医学 Legal Medicine	二宮 賢司 Kenji Ninomiya, M.D., Ph.D.	法医病理学、法医中毒学 Forensic Pathology, Forensic Toxicology
内分泌代謝・血液・ 膠原病内科学 Internal Medicine, Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Hematology, Rheumatology	益崎 裕章 Hiroaki Masuzaki, M.D., Ph.D.	内科学、内分泌・代謝病学、糖尿病学、血液病学、膠原病・リウマチ学 Internal Medicine, Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Hematology, Rheumatology
循環器・腎臓・神経内科学 Cardiovascular Medicine, Nephrology and Neurology	大屋 祐輔 Yusuke Ohya, M.D., Ph.D.	内科学、循環器病学、腎臓病学、高血圧学、神経病学、脳卒中学、臨床疫学 Internal Medicine, Cardiology, Nephrology, Hypertension, Neurology, Stroke, Clinical Epidemiology
消化器・腫瘍外科学 Digestive and General Surgery		
女性・生殖医学 Medical Science of Women and Reproduction	青木 陽一 Yoichi Aoki, M.D., Ph.D.	婦人科腫瘍学、生殖医学、周産期医学、婦人科手術学、内視鏡下手術 Gynecologic Oncology, Reproductive Medicine, Perinatal Medicine, Gynecologic Surgery, Endoscopic Surgery

医学専攻(博士課程) Medicine (Doctoral Program)

講座	教授名	主要研究概要
微生物学・腫瘍学 Microbiology and Oncology	森 直樹 Naoki Mori, M.D., Ph.D.	ウイルスおよび細菌関連腫瘍における発がん機構の解析とその予防・治療法の開発 Analysis of Mechanisms for Viral and Bacterial Pathogens-associated Carcinogenesis, and Development of Novel Molecular-targeted Prevention and Therapy of Malignancy
細菌学 Bacteriology	山城 哲 Tetsu Yamashiro, M.D., Ph.D.	病原細菌における疫学的研究および病原因子の解明、制御に関する研究 Studies on epidemiology, pathogenesis of pathogenic bacteria, and searching for natural substances controlling them
寄生虫・免疫病因病態学 Parasitology and Immunopathology	岸本 英博 Hidehiro Kishimoto, M.D., Ph.D.	寄生虫及び感染症の免疫学的、分子生物学的研究 Immunological and Molecular Biological Research on Parasitic Diseases
皮膚科学 Dermatology	高橋 健造 Kenzo Takahashi, M.D., Ph.D.	皮膚科学、皮膚腫瘍学、皮膚老化、角化症、琉球地方の皮膚病 Dermatology, Skin Cancer, Skin aging, Genodermatosis, Skin diseases of the Ryukyus
免疫学 Immunology	田中 勇悦 Yuetsu Tanaka, Ph.D.	エイズウイルスやヒトT細胞白血病ウイルス感染症に対する感染防御免疫応答の基礎研究およびワクチンの研究開発 Basic Studies on Immunological Prevention of Infection with HIV and HTLV, and Development of Vaccines
感染症・呼吸器・消化器 内科学 Infectious, Respiratory and Digestive Medicine	藤田 次郎 Jiro Fujita, M.D., Ph.D.	感染症学、呼吸器病学、消化器病学、化学療法学、臨床微生物学 Infectious Diseases, Respiratory Diseases, Digestive Diseases, Chemotherapy, Clinical Microbiology
生体防御学(協力) Host Defense	松崎 吾朗 Goro Matsuzaki, M.D., Ph.D.	結核などの細菌感染症に対する防御免疫機構の解明 Protective Immunity and its Regulation against Infections of Mycobacteria and Other Bacteria
感染免疫制御学(協力) Vaccinology and Vaccine Immunology	新川 武 Takeshi Arakawa, Ph.D.	感染症ワクチンおよび抗体医薬の開発ならびにその免疫学的作用機序解明 Development of Vaccines and Therapeutic monoclonal antibodies for the Control of Infectious Diseases and Elucidation of Their Immunological Mechanisms
ウイルス学 Virology	大野 真治 Shinji Ohno, M.D., Ph.D.	ウイルス宿主間相互作用、ワクチン開発、ウイルス疫学 Virus-Host Interaction, Vaccine Development, and Viral Epidemiology
臨床研究教育管理学 Clinical Research and Quality Management	植田 真一郎 Shin-ichiro Ueda, M.D., Ph.D.	臨床研究の品質管理とデザイン Quality Management of Investigator-initiated Clinical Research, Biostatistics and Study Design, Data Management



医学部保健学科 School of Health Sciences in Faculty of Medicine

基礎看護学講座 Department of Fundamental Nursing

分野	教授名	主要研究概要
基礎看護学 Fundamental Nursing	豊里 竹彦 Takehiko Toyosato, R.N., Ph.D.	基礎看護学、看護教育 Fundamental Nursing, Nursing Education
疫学・健康教育学 Epidemiology and Health Promotion	高倉 実 Minoru Takakura, Ph.D.	学校保健学、社会疫学、行動疫学、健康教育学 School Health, Public Health, Social Epidemiology, Behavioral Epidemiology, Health Promotion and Education
生物統計学 Biostatistics	米本 孝二 Koji Yonemoto, Ph.D.	生物統計学 Biostatistics

成人・老年看護学講座 Department of Adult and Gerontological Nursing

分野	教授名	主要研究概要
成人・がん看護学 Adult Health and Cancer Nursing	照屋 典子 Noriko Teruya, R.N., Ph.D.	成人看護学、がん看護学、緩和ケア Adult Health Nursing, Cancer Nursing, Palliative Care
在宅・慢性期看護学 Home Care and Chronic Care Nursing		
老年看護学 Gerontological Nursing	國吉 緑 Midori Kuniyoshi, R.N., Ph.D.	老年看護学 Gerontological Nursing

母子看護学講座 Department of Maternal and Child Nursing

分野	教授名	主要研究概要
母性看護・助産学 Maternal Nursing and Midwifery	大嶺 ふじ子 Fujiko Omine, R.N., R.M., P.H.N., Ph.D.	母性看護学、助産学 Maternity Nursing, Midwifery
小児看護学 Child Health Nursing		小児看護学、母子看護学 Child Health Nursing, Maternal and Child Health Nursing
国際地域保健学 Global Health	小林 潤 Jun Kobayashi, M.D., Ph.D.	国際保健学 Global Health

地域看護学講座 Department of Community Health Nursing

分野	教授名	主要研究概要
地域看護学 Community Health Nursing		公衆衛生看護学、地域看護学 Public Health Nursing, Community Health Nursing
精神看護学 Mental Health Nursing	與古田 孝夫 Takao Yokota, R.N., Ph.D.	精神看護学、精神保健学 Mental Health Nursing, Mental Health
臨床心理・学校保健学 Clinical Psychology and School Health		臨床心理学、学校保健学 Clinical Psychology, School Health

生体検査学講座 Department of Basic Laboratory Sciences

分野	教授名	主要研究概要
生体代謝学 Biometabolic Chemistry	原嶋 奈々江 Nanae Harashima, Ph.D.	生化学、腫瘍免疫学 Biochemistry, Tumor Immunology
分子遺伝学 Molecular Genetics	中尾 浩史 Hiroshi Nakao, Ph.D.	分子遺伝学、細菌学、薬物代謝、薬草の抗酸化作用 Molecular Genetics, Bacteriology, Drug Metabolism, Antioxidant Action of Medicinal Herbs
形態病理学 Morphological Pathology	金城 貴夫 Takao Kinjo, M.D., Ph.D.	病理学、臨床細胞学、実験病理学、沖縄県の感染症の病理学的及び分子生物学的解析 Pathology, Clinical Cytology, Experimental Pathology, Molecular and Pathological Analysis of Infectious Diseases in Okinawa

医学部保健学科 School of Health Sciences in Faculty of Medicine

病態検査学講座 Department of Clinical Laboratory Sciences

分野	教授名	主要研究概要
病原体検査学 Microbiology	平井 到 Itaru Hirai, Ph.D.	微生物学、腸内細菌学 Microbiology, Intestinal Bacteriology
生理機能検査学 Clinical Physiology	粟田 久多佳 Hisataka Awata, M.D., Ph.D.	腎臓病学、生理機能検査学 Nephrology Clinical Physiology
血液免疫検査学 Hematology	福島 卓也 Takuya Fukushima, M.D., Ph.D.	血液学、成人T細胞白血病、リンパ腫の臨床研究及び分子生物学的研究 Hematology, Clinical Study and molecular biology of adult T-cell leukemia-lymphoma

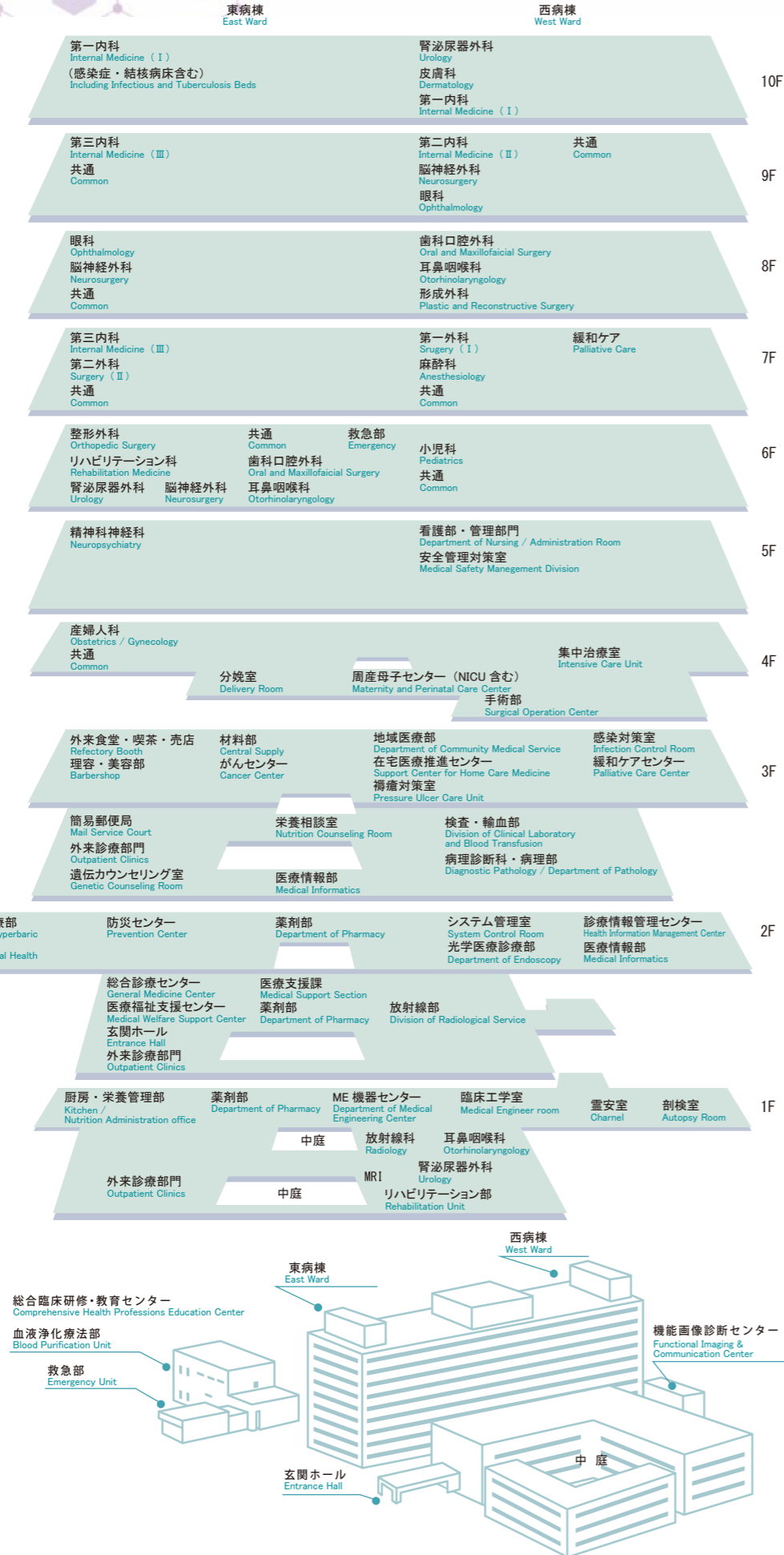
先端医学研究センター Advanced Medical Research Center

分野	教授名	主要研究概要
共通機器・RI研究支援分野 Division of Shared Equipment and RI Research Support	筒井 正人 Masato Tsutsui, M.D., Ph.D.	分子細胞生物学、生化学、病理学、医療情報学 Molecular Cell Biology, Biochemistry, Pathology, Medical Informatics
動物実験分野 Division of Experimental Animal Research	高山 千利 Chitoshi Takayama, M.D., Ph.D.	実験動物学 Laboratory Animal Science
バイオバンク分野 Division of Bio Bank	前田 士郎 Shiro Maeda, M.D., Ph.D.	沖縄バイオインフォメーションバンク構築、生活習慣病関連ゲノム研究、標準ゲノム配列情報整備 Construction of Okinawa Bio Information Bank, Genetic Study for Life-style Related Diseases, Preparation of The Reference Panel Sequence for The Okinawa Population
再生医療分野 Division of Regenerative Medicine	野口 洋文 Hirofumi Noguchi, M.D., Ph.D.	再生医療、細胞治療 Regenerative Medicine, Cell Therapy
臨床研究総合支援分野 Ryukyū Clinical Research Unit	植田 真一郎 Shin-ichiro Ueda, M.D., Ph.D.	臨床研究立案、計画作成、実施支援、データ管理、解析、品質管理、文書作成、臨床研究トレーニング、教育プログラム作成 Support for Clinical Research Planning, Protocol Development, Conducting, Data Management & Analysis, Quality Management & Assurance, Medical Writing, Clinical Research Training, Development of Education Program
生物統計・産学連携分野 Division of Biostatistics and Industry-Academia Collaboration	米本 孝二 Koji Yonemoto, Ph.D.	生物統計学 Biostatistics

医学教育企画室 Office of Medical Education

施設	教授名	主要研究概要
医学教育企画室 Office of Medical Education	室長(併) 山本 秀幸 Hideyuki Yamamoto, M.D., Ph.D.	医学教育学 Medical Education Studies





1. 入院外来患者数及び紹介患者 Number of Inpatients and Outpatients

事項 Classification	入院 Inpatients					外来 Outpatients			紹介患者率 Introduced Rates (In Medical Law)
	病床数 Number of Sickbeds	入院患者延数 Number of Patients Average	一日平均 入院患者数 Average Number of Patients per Day	平均 在院日数 Average Number of Stay-Days	病床稼働率 Work Rate	外来患者延数 Number of Patients	一日平均 外来患者数 Average Number of Patients per Day	平均通院日数 Average Number of Coming-Days	
平成21年度(2009)	600	181,872	498.3	19.7	82.9	253,950	1,049.4	19.0	77.1
平成22年度(2010)	600	188,162	515.5	18.8	85.9	257,566	1,059.9	16.8	75.9
平成23年度(2011)	600	185,463	506.7	17.7	84.5	262,958	1,082.1	17.1	76.1
平成24年度(2012)	600	187,781	514.5	17.3	85.7	271,411	1,112.3	18.0	78.3
平成25年度(2013)	600	188,687	517.0	16.1	86.2	281,490	1,153.6	16.7	79.7
平成26年度(2014)	600	184,518	505.5	14.3	84.3	284,898	1,172.4	16.1	76.9
平成27年度(2015)	600	187,927	513.5	13.8	85.6	281,057	1,161.4	16.2	78.6
平成28年度(2016)	600	192,020	526.1	13.9	87.7	285,020	1,172.9	16.5	78.0
平成29年度(2017)	600	188,624	516.8	12.9	86.1	287,711	1,179.1	16.5	78.8
平成30年度(2018)	600	188,250	515.8	12.7	86.0	291,131	1,193.2	16.6	81.7

2. 診療科別入院、外来患者数及び紹介患者率 Number of Patients by Clinical Divisions

事項 Classification	病床数 Number of Sickbeds	入院 Inpatients					外来 Outpatients					医療上の 紹介患者率 Introduced Rates		
		新入院 患者数 Admissions	在院患者 延数 Number of Patients	退院 患者数 Discharges	一日平均 入院患者数 Average Number of Patients per Day	平均 在院日数 Average Number of Stay-Days	死亡 患者数 Number of Deaths	院内 死亡率 (死亡患者/ 退院患者) Death Rate	新来 患者数 Number of New Patients	再来 患者数 Number of Patients	一日平均 外来患者数 Average Number of Patients per Day		平均通院 日数 (外来延患者/ 新来患者) Average Number of Coming-Days	救急 患者数 Average Number of Emergency Patients
第一内科 Internal Medicine (I)	47	1,192	14,194	1,176	42.1	12.0	27	2.30	688	21,800	92.2	32.7	464	68.9
第二内科 Internal Medicine (II)	39	694	13,392	678	38.5	19.5	16	2.36	414	17,699	74.2	43.8	126	71.3
第三内科 Internal Medicine (III)	49	1,110	16,668	1,098	48.7	15.1	15	1.37	826	31,298	131.7	38.9	338	81.2
第一外科 Surgery (I)	42	998	11,826	1,006	35.2	11.8	24	2.39	287	7,526	32.0	27.2	243	73.2
第二外科 Surgery (II)	44	536	12,938	547	36.9	23.9	10	1.83	242	6,815	28.9	29.2	129	78.5
脳神経外科 Neurosurgery	27	351	9,536	359	27.1	26.9	11	3.06	186	4,713	20.1	26.3	84	80.1
整形外科 Orthopedic Surgery	38	708	11,505	708	33.5	16.3	0	0.00	1,077	18,474	80.1	18.2	199	94.9
形成外科 Plastic and Reconstructive Surgery	4	164	1,556	164	4.7	9.5	0	0.00	139	1,463	6.6	11.5	10	66.7
産科婦人科 Obstetrics/Gynecology	51	1,786	13,782	1,808	42.7	7.7	11	0.61	1,233	24,745	106.5	21.1	201	88.4
小児科 Pediatrics	41	806	12,143	809	35.5	15.0	5	0.62	257	9,664	40.7	38.6	346	44.1
皮膚科 Dermatology	21	505	5,366	511	16.1	10.6	6	1.17	926	19,053	81.9	21.6	84	91.3
泌尿器外科 Urology	25	950	6,981	955	21.7	7.3	16	1.68	585	11,786	50.7	21.1	124	80.5
耳鼻咽喉科 Otorhinolaryngology	43	1,208	16,853	1,209	49.5	13.9	10	0.83	1,705	17,268	77.8	11.1	140	92.8
眼科 Ophthalmology	29	1,692	6,671	1,698	22.9	3.9	0	0.00	2,455	28,540	127.0	12.6	278	91.1
精神科神経科 Neuropsychiatry	40	248	12,597	251	35.2	50.5	1	0.40	456	13,069	55.4	29.7	235	63.9
放射線科 Radiology	8	235	1,989	228	6.1	8.6	0	0.00	1,261	15,326	68.0	13.2	6	94.8
麻酔科 Anesthesiology	2	8	39	8	0.1	4.9	0	0.00	242	3,703	16.2	16.3	1	18.9
歯科口腔外科 Oral and Maxillofacial Surgery	17	380	5,210	383	15.3	13.7	1	0.26	2,464	15,112	72.0	7.1	109	51.1
救急科 Emergency and Critical Care	7	189	1,259	149	3.9	7.4	5	3.36	2,085	5,549	31.3	3.7	5,396	159.6
共通 Common	18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ICU Intensive Care Unit	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計 Total	600	13,760	174,505	13,745	515.8	12.7	158	1.15	17,528	273,603	1,193.2	16.6	8,513	81.7

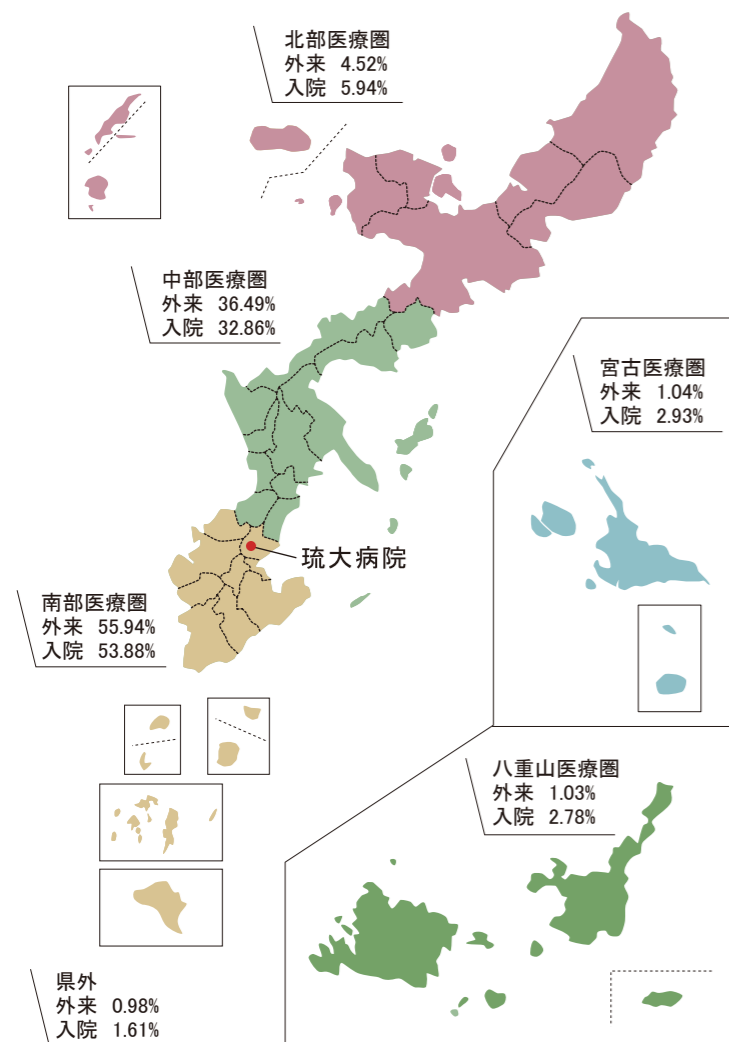
※第一内科に結核病床4床及び感染病床6床を含む

3. 診療費用負担区分別患者数 Number of Patients by Medical Fees

区分 Classification			入院患者延数 Number of Inpatients	外来患者延数 Number of Outpatients	計 Total
自費 Personal Expense			1,641	7,645	9,286
社会保険 Social Insurance	被保険者 Insured Person		35,061	65,222	100,283
	被扶養者 Supported Person		36,009	57,497	93,506
国民健康保険 National Health Insurance			63,054	90,199	153,253
後期高齢者 Health Care System for The Latter-Stage Elderly			38,313	51,790	90,103
社会福祉 Paid by Public Welfare	全額 All		13,660	17,190	30,850
その他 Others			512	1,581	2,093
計 Total			188,250	291,124	479,374
再掲	社会福祉 Paid by Public Welfare	一部 Portion	20,468	36,708	57,176
	校費 Paid by University	一部 Portion	48	25	73

※その他…上記保険以外の区分項目を指す

4. 地域別患者数 Number of Patients by Area



		市	町	村	外 来	比率 (%)	入 院	比率 (%)
北部医療圏	名護市				8,002	2.75	6,596	3.50
	国頭村				664	0.23	697	0.37
	大宜味村				514	0.18	385	0.20
	東郷村				160	0.05	81	0.04
	今帰仁村				1,169	0.40	1,060	0.56
	本部町				1,692	0.58	1,331	0.71
	伊江村				500	0.17	568	0.30
	伊平屋村				183	0.06	154	0.08
	伊是名村				263	0.09	314	0.17
	小計				13,147	4.52	11,186	5.94
中部医療圏	うるま市				11,997	4.12	7,162	3.80
	恩納村				980	0.34	475	0.25
	宜野座村				823	0.28	865	0.46
	金武町				1,339	0.46	784	0.42
	宜野湾市				44,487	15.28	24,815	13.18
	沖縄市				19,144	6.58	11,626	6.18
	読谷村				4,841	1.66	3,387	1.80
	嘉手納町				1,931	0.66	1,574	0.84
	北谷町				5,195	1.78	2,943	1.56
	北中城村				4,706	1.62	2,735	1.45
中城村				10,785	3.70	5,497	2.92	
小計				106,228	36.49	61,863	32.86	
南部医療圏	那覇市				66,611	22.88	42,192	22.41
	浦添市				31,807	10.93	19,607	10.42
	糸満市				7,483	2.57	5,551	2.95
	西原町				19,907	6.84	9,855	5.24
	豊見城市				8,973	3.08	6,863	3.65
	八重瀬町				4,267	1.47	2,116	1.12
	南城市				9,202	3.16	5,719	3.04
	与那原町				5,480	1.88	2,991	1.59
	南風原町				7,431	2.55	4,803	2.55
	久米島町				1,028	0.35	1,112	0.59
渡嘉敷村				97	0.03	117	0.06	
座間味村				292	0.10	192	0.10	
粟国村				81	0.03	82	0.04	
渡名喜村				63	0.02	94	0.05	
南大東村				83	0.03	84	0.04	
北大東村				65	0.02	55	0.03	
小計				162,870	55.94	101,433	53.88	
宮古医療圏	宮古島市				2,859	0.98	5,085	2.70
	多良間村				157	0.05	422	0.22
小計				3,016	1.04	5,507	2.93	
八重山医療圏	石垣市				2,711	0.93	4,839	2.57
	竹富町				181	0.06	251	0.13
	与那国町				114	0.04	138	0.07
小計				3,006	1.03	5,228	2.78	
県外				2,859	0.98	3,033	1.61	
合計				291,126	100.00	188,250	100.00	

5. 臨床検査件数 Number of Laboratory Tests

区分 Classification	入院 Inpatients	外来 Outpatients	外注検査 Tests Consigned		計 Total	
			入院 Inpatients	外来 Outpatients		
一般検査 General Testing	29,759	79,458	2	0	109,219	
血液学的検査 Hematology	164,151	189,247	352	197	353,947	
生化学的検査 Biochemistry	690,470	1,082,884	3,762	2,883	1,779,999	
内分泌学的検査 Endocrinology	15,217	38,978	5,794	2,551	62,540	
免疫学的検査 Immunology	70,044	116,641	2,598	4,778	194,061	
微生物学的検査 Microbiology	45,321	20,258	263	360	66,202	
病理学的検査 Pathology	5,123	8,706	126	7	13,962	
その他の検体検査 Others	12,067	39,503	1,375	2,580	55,525	
生理機能検査 Physiology	循環器機能検査 Circulatory Function Test	5,222	10,010	—	—	15,232
	脳・神経機能検査 Cerebral and Neurological Function Test	539	883	—	—	1,422
	呼吸機能検査 Respiratory Function Test	1,588	5,250	—	—	6,838
	前庭・聴力機能検査 Vestibular Function Test / Audiometry	277	9,887	—	—	10,164
	眼科関連機能検査 Ocular Related Function Test	13,455	159,098	—	—	172,553
	超音波検査 Ultrasonography	8,202	15,841	—	—	24,043
小計 Subtotal	29,283	200,969	—	—	230,252	
採血・採液等 Venopuncture/Sample Collection	61,549	59,274	—	—	120,823	
内視鏡検査 Endoscopy	1,231	1,792	—	—	3,023	
その他の分類コードに未記載のもの Others: No Classification Code	729	290	—	—	1,019	
合計 Total	1,124,944	1,838,000	14,272	13,356	2,990,572	

6. 手術及び麻酔件数 Number of Surgery Cases and Anesthetic Cases

区分 Classification	手術件数 Number of Surgery Cases							麻酔件数 Number of Anesthetic Cases			
	0~999点	1000~2999点	3000~4999点	5000~9999点	10000~14999点	15000~19999点	20000点以上	計 Total	0~999点	1000点以上	計 Total
件数 Number	2,759	2,440	1,140	1,477	1,732	987	3,788	14,323	3,743	5,225	8,968

(※医事算定上の神経ブロック料も含まれる)

7. 放射線撮影・透視・治療・検査人数 Number of Radiographs, Fluoroscopies and Radiotherapies

区分 Classification	患者数 Number of Patients	入院 Inpatients	外来 Outpatients	計 Total
X線撮影及び透視人数 Number of Radiography and X-Ray Fluoroscopy	撮影人数 Number of Radiography	32,978	29,714	62,692
	透視人数 Number of X-Ray Fluoroscopy	30,675	28,906	59,581
	透視人数 Number of X-Ray Fluoroscopy	2,303	808	3,111
CT検査人数 Number of X-CT		6,181	13,915	20,096
MRI検査人数 Number of MRI		1,699	5,878	7,577
超音波検査人数 Number of Ultra-Sonic Echogram	体外照射 Number of External Radiotherapy	286	1,264	1,550
	体内照射 Number of Intracavitary Irradiation	8,820	4,592	13,412
放射線治療人数 Number of Total Radiotherapy Cases	密封小線源治療 Number of Brachytherapy	185	2	187
	組織内照射 Number of Interstitial Irradiation	21	2	23
	計 Total	9,026	4,596	13,622
RI検査人数(PET検査含む) Number of RI Scintigraphy		460	3,381	3,841

8. 病理診断件数 Number of Pathological Diagnosis

区分 Classification	組織診断 Histological Diagnosis			細胞診 Cytological Diagnosis	免疫染色 Immuno-histochemistry
	生検(他) Biopsy, etc.	手術 Operation	術中迅速 Rapid Diagnosis	一般 General	
件数 Number	3,158	3,700	416	6,971	1,668

9.産科統計 Obstetrical Statistics

①分娩件数 (Number of Delivery) (平成30年)

区分 Classification	例数 Number	率 (%) Rate
経膣分娩 Vaginal Delivery	205	60.8
帝王切開術 Caesarean Section	132	39.2
計 Total	337	100.0

※多胎児は1件と数える

②多胎妊婦の頻度 (Rate of Multiple Pregnancy) (平成30年)

区分 Classification	例数 Number	率 (%) Rate
単胎 Singletons	327	97.0
双胎 Twins	10	3.0
品胎 Triplets	0	0
計 Total	337	100.0

③出生児体重別頻度 (Birthweight of Liveborn Infant) (平成30年)

区分 Classification	例数 Number	率 (%) Rate
≥ 4000 g	3	0.9
2500 g ~ 3999 g	258	74.3
1500 g ~ 2499 g	63	18.2
1000 g ~ 1499 g	9	2.6
1000 g >	14	4.0
計 Total	347	100.0

10.調剤薬処方枚数・処方件数・処方剤数 Number of Prescriptions

(平成30年)

区分 Classification	枚数 Sheets	件数 Cases	剤数 Doses	
院内処方箋 Prescription of the inside hospital	入院 Inpatients	124,357 枚	265,544 件	1,495,723 剤
	外来 Outpatients	10,815 枚	25,156 件	387,180 剤
	計 Total	135,172 枚	290,700 件	1,882,903 剤
院外処方箋 Prescription	127,558 枚	424,766 件	11,913,650 剤	

土地及び建物 Site and Floorage of the Buildings

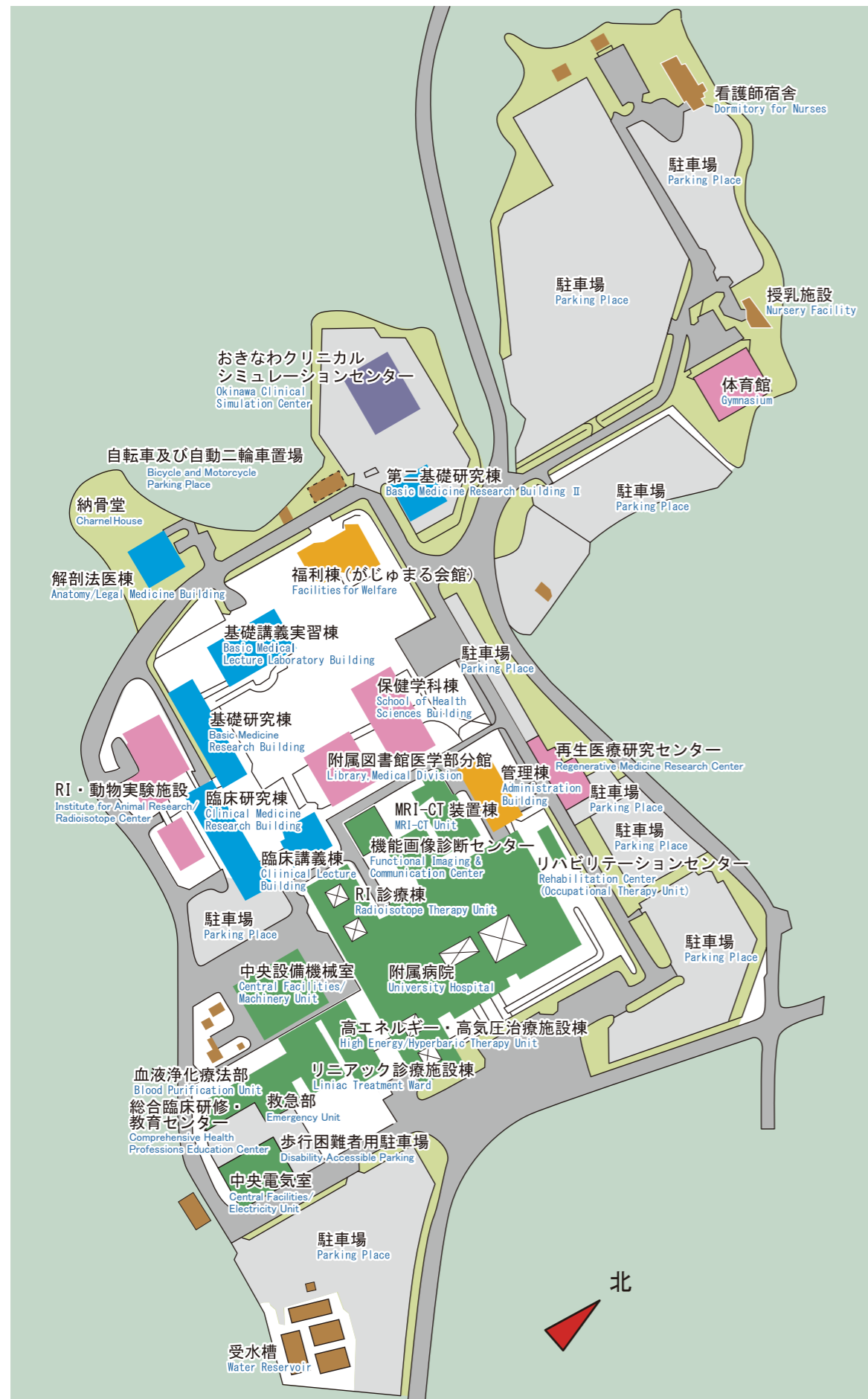
面積 Area	敷地面積 Site	139,169 m ²
	建物総面積 Total Floorage	98,323 m ²

建設年度 Year of Construction

名称 Name	建面積 Floorage	延面積 Total Floorage	建設年度 Year of Construction
基礎研究棟 Basic Medicine Research Building	962 m ²	7,931 m ²	昭和58.2 1983. February
臨床研究棟 Clinical Medicine Research Building	1,046 m ²	8,436 m ²	昭和59.1 1984. January
基礎講義実習棟 Basic Medical Lecture Laboratory Building	1,107 m ²	3,074 m ²	昭和57.10 1982. October
解剖法医棟 Anatomy / Legal Medicine Building	577 m ²	1,142 m ²	昭和57.10 1982. October
臨床講義棟 Clinical Lecture Building	609 m ²	1,240 m ²	昭和58.12 1983. December
保健学科棟 School of Health Sciences Building	1,143 m ²	6,252 m ²	昭和58.2 1983. February
R I・動物実験施設 Institute for Animal Research / Radioisotope Center	1,395 m ²	3,961 m ²	昭和58.10 1983. October
福利棟(がじゅまる会館) Facilities for Welfare	990 m ²	1,687 m ²	昭和58.3 1983. March
附属図書館医学部分館 Library, Medical Division	761 m ²	1,403 m ²	昭和59.3 1984. March
体育館 Gymnasium	1,247 m ²	1,063 m ²	昭和60.3 1985. March
管理棟 Administration Building	741 m ²	1,967 m ²	昭和59.3 1984. March
第二基礎研究棟 Basic Medicine Research Building II	473 m ²	829 m ²	平成2.3 1990. March
附属病院 University Hospital	8,233 m ²	40,386 m ²	昭和58.12 1983. December
高エネルギー・高気圧治療施設棟 High Energy / Hyperbaric Therapy Unit	734 m ²	821 m ²	昭和59.3 1984. March
R I 診療棟 Radioisotope Therapy Unit	338 m ²	624 m ²	昭和62.3 1987. March
MRI - CT装置棟 MRI - CT Unit	705 m ²	709 m ²	平成8.7 1996. July
リニアク診療施設棟 Liniac Treatment Ward	294 m ²	293 m ²	平成元.3 1989. March
看護師宿舎 Dormitory for Nurses	316 m ²	1,384 m ²	昭和59.3 1984. March
中央設備機械室 Central Facilities / Machinery Unit	1,287 m ²	1,647 m ²	昭和58.12 1983. December
総合臨床研修・教育センター Comprehensive Health Professions Education Center	697 m ²	1,284 m ²	平成23.8 2011. August
おきなわクリニカルシミュレーションセンター Okinawa Clinical Simulation Center	878 m ²	2,288 m ²	平成24.2 2012. February
機能画像診断センター Functional Imaging & Communication Center	507 m ²	1,952 m ²	平成25.2 2013. February
中央電気室 Central Facilities / Electricity Unit	439 m ²	611 m ²	平成25.3 2013. March
救急災害医療棟 Emergency and Disaster Medicine Building	742 m ²	680 m ²	平成26.11 2014. November
再生医療研究センター Regenerative Medicine Research Center	554 m ²	812 m ²	平成27.6 2015. June
駐車場、その他 Parking Place, Others	3,539 m ²	5,847 m ²	
面積計 Floorage	30,314 m ²	98,323 m ²	

19 建物配置図

Campus Map



20 アクセス

Access



[空港から]

空 港	モノレール	儀保駅	路線バス (那覇バス)	97	琉球大学医学部・附属病院
	モノレール	首里駅	路線バス (那覇バス)	94	琉球大学医学部・附属病院
			タクシー		

所要時間: 約25分 (モノレール), 約30分 (バス), 約27分 (モノレール), 約15分 (タクシー)

タクシー

所要時間: 約35分

路線: ●空港→沖縄自動車道→琉球大学医学部・附属病院
●空港→那覇うみそらトンネル→国道330号→琉球大学医学部・附属病院

[那覇バスターミナルから]

バス

路線バス (20~30分に1本)

97 番線 (琉大線) 那覇バス株式会社

所要時間: 約50分

のりば: 市外線バスターミナル (那覇市泉崎) 4番ホーム

路線: バスターミナル (泉崎) → 国際通り (牧志) → 儀保 (首里) → 琉球大学医学部・附属病院